公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成25年 9月1日発行（毎月1回1日発行） 通巻537号

ハンドボール

AUG. SEP. 2013 No.537

特集

日韓定期戦2013
第12回女子ジュニアアジア選手権
第3回全日本社会人選手権大会

［表紙写真］日韓定期戦より、左：男子・小澤広太選手、右：女子・飛田季実子選手：写真提供・スポーツイベント社

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.jp/

公益財団法人となり新組織体制のもと、平成25年度事業活動がスタート

公益財団法人 日本ハンドボール協会専務理事　**川上 憲太**

日本ハンドボール協会は、平成25年4月より公益財団法人となりました。今年2月の日本協会創立75周年祝賀会を終え、公益財団法人への移行に伴う6月の新評議員会が開かれ、新しい理事の選任が行われ、新理事会が開かれました。新理事会のメンバーには、昨年度の議論をふまえ、連盟理事とともに全国9ブロックより理事が選出されています。日本ハンドボール界発展の礎は日本協会トップガバナンスに基づく各都道府県の活発な活動にあるという基本に立ち、改めまして大きな視点に立ち、担当ブロックの活性化にご尽力をお願いする意味が含まれています。そして新たに女性理事、第3者学識経験者を加えた28名の新理事による新組織体制による事業活動が展開され、早くも半期が経過しようとしています。今年度も日本協会の理念に基づいた「国際競技力向上にすべての総力を結集」するという事業目標に変わりはありません。これには2020年の東京オリンピック・パラリンピック招致の実現が目の前に迫る中、2016年リオデジャネイロオリンピック、2020年東京オリンピックに向けた短期・中期の強化計画に基づく総力の結集がマストであります。この事業目標を達成させるには、新組織体制のすべての活動が活性化しなければ実現できないと考えます。単に日本代表の部分だけに注視した考えではしっかりした成果に結び付かないと思っています。以下、今年度事業の中味と経過をお伝えします。

「強化」前年度スタートした津川強化本部長、清水男子代表監督、栗山女子代表監督によるナショナル活動は不退転の決意のもと明確な目標設定が示され、それに伴う厳しい選手選考、激しいトレーニングが続いています。5月末の日韓戦の悔しい敗戦をベースに、課題の克服・個々の力のレベルアップ、チーム力アップの目的で男女ともに欧州遠征を行いました。女子は12月の世界選手権での活躍、男子は来年1月のアジア選手権で世界選手権出場権獲得を目指しています。

7月初旬には女子ジュニアチームがアジア選手権で2位となり世界選手権出場を果たしました。今月は女子ユースチームが世界選手権出場を上位で決めてくれるはずです。男子ユースチームは初めての世界選手権出場、期待に応えてくれると確信しています。

「発掘・育成」今年度前半にジュニア・アカデミー合宿を集中して行い、大型選手発掘を始め、新しい有望選手の発掘・育成に取り組んでいます。

「審判」6月末にトップレフェリー研修会が日本協会、日本リーグ合同で開催され、今年度掲げている「国際基準に沿った判定」への熱心な取り組みがなされました。レフェリーアカデミーの若手レフェリーも参加しました。

「指導普及」指導者育成について、ライセンス化に向けた取り組みの具体策を検討し、暴力撲滅に対する指導方法の見直し、アンチドーピングに対する対応等も含めてトップ指導者育成、学連、高体連、中体連、都道府県の指導者の育成の具体的推進が始まりました。

「総務」新公益法人化に伴い、ガバナンス力のアップ、コンプライアンスの徹底を図るべく、事務局・委員会等での事業執行の中での推進をスタートしました。我々も含めたハンドボール界全体の意識変革が必要となりますのでよろしくお願いします。また、新たにコンプライアンス委員会を立ち上げ諸問題に対応します。

「国際」6月の新理事会で2019年の女子世界選手権開催に立候補しました。それに伴い、会長を中心にしたIHF・AHFへの招致活動を展開中であります。現在、立候補申請ファイルをIHF本部に提出したところです。このあと、IHF本部でのプレゼンを経て早くも10月末のIHF新理事会で決定されます。只今、渡邊会長を中心に全力で取り組んでおります。また10月にはAHF・IHFの総会が開かれ、新しい役員が決定される大事な時期となっています。

「マーケティング」次のリオオリンピック、世界選手権に出場する日本代表を基本バリューとして、HP、機関誌、各種大会、イベントを中心にマーケティング活動に取り組んでいます。初めて「日本代表チームの名称」を公募しました。ネーミングが楽しみです。ご注目ください。

「日本リーグ」第38回大会が開幕しました。各チームともに新メンバーを加えレベルアップが図られています。魅力ある日本代表候補が激しい戦いを繰り広げますのでご注目ください。是非会場に足を運んで応援、激励を宜しくお願いします。

今年度後半に向けて4月にお示しをした平成25年度事業計画を確実に実行し、その成果を上げることが悲願であるオリンピック出場、世界選手権での活躍につながります。全国の皆さんのより一層のご支援ご協力をお願いします。

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定が数日後に迫っています。皆様とともに、朗報を期待したいと思います。

2013 JAPAN KOREA HANDBALL SUPER MATCH

日韓定期戦 2013

開催地：韓国　ソウル
会場名：SK オリンピックハンドボール体育館
日　時：2013 年 5 月 28 日（火）

報　告

団長　川上 憲太

5 月 28 日に韓国・ソウルの SK ハンドボール競技場で 2013 年日韓戦が多くの観衆のもとに行われました。日本と韓国のハンドボール交流は、指導者の交流も含めてここ数十年に亘り様々な型で行われています。直近では小学生チームの交流も定期的になり、中学生・高校生・大学生・社会人チームの交流が公私共頻繁に行われ、両国ともにその成果を上げています。このことは日本協会と韓国協会が永年に亘り、お互いをアジアの中のライバルと位置付け、切磋琢磨して発展を続けねばならないという強い意志のもとに推進してきた賜物と考えます。

そしてこの交流・戦いの中からアジアを抜け、ヨーロッパ勢を相手にした世界の大会（オリンピック・世界選手権）での飛躍を期待しているわけであります。

以上の考えのもと、年に一度男女の代表戦を行うことが決定され、2010 年に第 1 回大会が日本（川崎市）で開かれました。

日本と韓国の代表戦は単なる交流戦、単なる定期戦を超えた国対国の強烈なライバル意識の上に成り立っています。従って名称も「日韓戦」なのであります。

日韓戦を前にした NTC での代表合宿では「国際試合は国対国の武器を持たない（ルールに基づいた）戦争なのだ。強い気持ちで挑んで欲しい」「韓国のハードなプレスディフェンスに強い気持ちと高いテクニックで挑んで欲しい」とお願いしました。

一方で「男子は第 1 回大会から連敗中で何としても勝ちにこだわって欲しい」ことを伝えました。ロンドンオリンピックが終わり韓国男子は新しいチーム編成で出て来ました。日本代表チームも清水新監督のもと初めての公式試合で初めて代表入りした選手が 6 名という津川強化本部長・清水新監督を含めて初物づくしで、その成果の第 1 弾が問われる戦いとなりました。

女子代表も昨年 12 月のアジア選手権で世界選手権出場権を獲得し、大学生選手も代表入りし、栗山新監督のもと「トータルモビリティ」を推進するチームで戦いに挑みました。韓国代表はこの日韓戦の前にスウェーデン遠征、ロシア・スペイン・アンゴラチームを招聘したソウルカップで優勝し、尚かつオリンピックでメダル獲得実績のあるイム・ヨンチョル新監督を据えてロンドンオリンピック 4 位の実力を持って挑んできました。

試合内容・経過・分析等は監督報告に譲りますが、結果としては男女とも敗れてしまいました。

しかしながら昨年、津川強化本部長のもと、リオオリンピック出場を目指した清水・栗山両監督が就任し、不退転の決意のもと明確な目標設定・考えを提示し、厳しい選手選考、意識改革、激しいトレーニング等で代表合宿に臨んでいる活動計画にさらなる自信と確証を感じさせる内容が随所にありました。まだまだ課題満載でありますが、次のステップに向けて「手ごたえ」をお伝えできる戦いであったと思います。

皆様、今後益々日本代表にご注目ご期待ご声援を宜しくお願いします。

次は女子は今年 12 月の世界選手権です。男子は来年 1 月のアジア選手権（世界選手権予選）です。

男子　日本代表　24（10－14、14－15）29　韓国代表

［個人得点］小澤：8点、高智・信太：5点、石戸：4点、地引：2点

日韓定期戦を終えて

男子日本代表チーム監督　清水 博之

昨年11月より新体制がスタートし約半年間、日本リーグや全日本総合選手権の合間に可能な限りで強化合宿を組ませていただきました。3年後のリオデジャネイロオリンピックを見据え、長年男子代表を支えていただいた主力メンバーを大幅に入れ替えたこともあり、世代交代を含め強化には時間が必要と考えた次第であります。活動開始当初は、「ナショナル選手またチームとは」、「28年ぶりの挑戦とは」と選手たちは言葉で理解できていても、実際にそれがどんな挑戦なのか明確には分らず、合宿中にも意見のすれ違いや取り組む内容に多くの戸惑いが見受けられました。そんな状態を打開したく、今年1月に開催されたスペイン世界選手権前のカップ戦に参加またクラブチームとの練習試合、世界選手権の試合観戦を実施させていただきました。カップ戦の結果は散々たる内容でありましたが、世界トップとの差を目の当たりに体感した選手たちは、多少ではありますが変化・自覚も芽生えてきました。その反省を活かし4月―5月と「個の強化（心技体）」「イージーミスの撲滅」を中心に取組み、目先の目標として「日韓定期戦勝利」を掲げチーム一丸で進んで参りました。

試合結果は既にご存知の通り、日本代表24対29韓国代表と5点差で敗退してしまいましたが、自分たちのやってきた事をコートで体現し最後まで諦めることなく戦い続けてくれた選手を頼もしく感じているところです。試合の流れは非常に苦しいものでした。日韓戦というお互い特別な思いのある試合であり、独特の緊張感、アウェーの雰囲気など、今回が代表デビュー戦になった選手には大きなプレッシャーとなりました。そんな状況で試合が始まりました。予想通りスタートメンバーの動きは固く、焦りと緊張からパスキャッチミス、ノーマークを外してしまい前半は終始3～4点リードされる展開となりました。しかしながら、プレスDFに対してのダブルポストでの崩しや、フィジカル（パワー）を活用したクロス攻撃、サイドからの2：2などが決まり始めると、選手またチームも落ち着きを取り戻し、後半残り9分の一番苦しい場面でDFからFBの連続得点で1点差まで詰め寄ることができました。ここからが勝負どころだというところまで来ましたが、残念ながら退場者を出してしまいラストで突き放されゲームセット。敵の尻尾はみえましたが、勝利の女神がほほ笑むことはありませんでした。

試合を終え感じていることは、個人技こそ負けていましたがチームとしての戦いには現段階で満足のいく内容でありました。しかしながら、このままではアジアのチャンピオンまたオリンピックには出場することができません。課題としましては、若手に多くの試合経験を積ませ、常に（60分）平常心でプレーできる選手を育成していくこと。次に相手チームの戦術また個人技を分析し、分っていてもやられたプレーを撲滅させる。最後に更なる個の強化とチーム戦術の統一および質の向上があげられます。どれも簡単な課題ではなく多くの時間が必要でありますが、ひとつひとつトレーニングで鍛錬し解決していきたいと考えております。現段階は発展途上ではありますが、確実な前進をするためにも再度初心に帰り再出発いたします。

皆様方のご期待に添える結果とはなりませんでしたが、代

表選手スタッフ一同オリンピック出場に向け、努力を惜しまず日々精進することを御誓いいたします。

今後とも男子代表チームへのご声援よろしくお願い申し上げます。

日韓定期戦を終えて

男子日本代表チーム主将　**地引 貴志**

今回の日韓定期戦に臨むに当たり、男子日本代表は公式戦で20年間以上韓国代表チームに勝てていない現状があり、その現状を打破しようとチームスローガンでもある「NEVER GIVE UP」のもとチーム一丸となり強化合宿を行ってきました。

結果としては24対29と5点差で韓国代表に力の差を見せつけられた試合になりましたが、試合の中で合宿で練習してきたプレスDFに対する崩しを統一することができ、イメージ通りの場面も沢山作ることができました。その半面DFでは韓国代表の個人技や2対2で簡単にDFラインを崩される場面もあり、DFからFBに繋げることができず日本のペースになかなか持っていくことができませんでした。

後半には韓国代表を1点差まで追いつめる場面もありましたが、試合を通して韓国代表から1回もリードを奪うことはできず、近いようで遠い5点差であるとも実感しています。また韓国代表はOFで作ったチャンスを確実に得点に結び付けていたのに対して、日本代表はOFで出来たチャンスをことごとく韓国代表GK陣にセーブされる場面も目立っていたのもスコアの差として出たのではないかと思います。

今回日韓定期戦で試合をしてチームとしての纏まりや団結力という点では決して韓国代表にも負けておらず、今まで以上に選手が自立して目標であるリオオリンピック出場に向けて予選まで練習することで、決して届かない目標ではないという手応えも選手全員が掴むことができたのではないかと思います。ですが、まだ試合中の個人の判断力や技術という点では韓国代表選手の方が上ではないかとも感じました。この差を埋める為には日本リーグの所属チームに戻っても選手一人一人が個人の課題を意識して日々の練習に臨み、日本代表として集まった時に個人のスキルを少しでも成長して集まる必要があるのではないかと思います。

最後に今回の日韓定期戦を開催するに当たり、御協力頂きました関係者の方々へ感謝申し上げると共に、悲願のオリンピック出場に向けてこれからも頑張りたいと思いますので、今後ともご声援宜しくお願い致します。

女子　**日本代表　23（12－11、11－15）26　韓国代表**

［個人得点］東濱：5点、高橋・上町：4点、横嶋・藤井：3点、錦織・石立：2点

日韓定期戦を振り返って

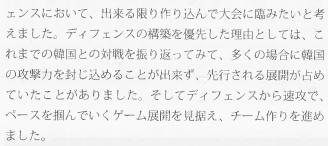
女子日本代表チーム監督　**栗山 雅倫**

2013年5月28日20時、韓国ソウルにて韓国サポーター一色の中で、日韓定期戦が開催されました。男子の定期戦を終えた直後の、会場の熱気が冷めぬまま、“韓国の勢いを如何に抑えてスタートできるか”と思案しながら当日までの準備を進めてまいりました。

今回の直前合宿は5月13日から27日にかけて、味の素ナショナルトレーニングセンターで行いました。3月4月と各1回ずつ、様々な行事の間隙を縫うように行ってきた合宿を積み重ねた上での現時点における戦術的なまとめと、世界選手権直前をシミュレーションした体力的な追い込みを含めたコンディショニングを強く意識して行いました。公式戦から少し離れていた選手がほとんどの状態で、合宿序盤での体力的に負荷の高いトレーニングは、ストレスも多かったように見受けられましたが、“自立”した個によるチーム作りを掲げてきたこともあってか、各選手意欲的に臨んでくれたと思います。

日韓定期戦に向けて、記者発表等でも繰り返し申し述べて参りましたが、ナショナルの戦いである以上、常に全力で臨むことが大前提でありました。また、今回は特にチーム発足一年目でもあり、チームとしての意思表示が明確にできる戦いを念頭に、内容にこだわったものを選手に強く求め、これもチーム発足から掲げている、機動的なハンドボールの展開

を全面に押し出したものを準備致しました。

前回のアジア選手権は、直前のわずかな日数の合宿からの大会入りであったため、前チームから引き継いだ潜在的な力と、戦術的方向性の明確化にのみ戦いを委ねたものでしたが、今回は合同トレーニング期間こそ十分ではないものの、日韓戦に向けたある程度の準備の中で臨めたものであった為、特にディフェンスにおいて、出来る限り作り込んで大会に臨みたいと考えました。ディフェンスの構築を優先した理由としては、これまでの韓国との対戦を振り返ってみて、多くの場合に韓国の攻撃力を封じ込めることが出来ず、先行される展開が占めていたことがありました。そしてディフェンスから速攻で、ペースを掴んでいくゲーム展開を見据え、チーム作りを進めました。

大会前に得られていた韓国サイドの情報としては、ノルウェイ遠征とヨーロッパ勢を招集した韓国国内における大会を経験した後であり、コンディションは良いとのことでした。また、今回の日韓定期戦における意気込みも、相当のものであると、韓国メディア関係者から聞かされていました。

試合が開始されると、韓国は司令塔のコン・ハンナ（ソウル市庁所属）を中心に、スピーディーな攻撃展開をしかけてくるといった予想通りのゲーム運びを進めたいかのように見えました。対する我々も、機動的な防御を展開し、互角の滑り出しとなりました。その後前半の大半は試合を優位に進め、一時は５点差をつける展開となりました。ここまではまさに"ディフェンスから速攻を主体としてペースを掴む"戦いでありました。しかしながら、後半は韓国のスピードにやや押され気味となり、攻撃のミスから速攻を浴びる展開に陥り、残り５分までは同点だったものの、３点差での敗戦となりました。

今回の対戦での勝利を最優先に捉えていなかったとはいえ、試合の大半をリードしながらの逆転負けは、今後の課題となったことに間違いありません。しかしながら内容にこだわり、特にディフェンスを優先して臨んだ今大会からの成果は、チームの今後に向けて大きな収穫となりました。また16名の選手をコートに送り出し、得難い経験値を全体的に高められたことも、大きい価値があると捉えています。肌で感じた日韓の戦いを、各選手は具体的に課題に織り込んでもらいたいと切に願っております。

大会運営を含め、地の利を存分に活用した韓国との戦いは、我々の悲願達成に向けた準備にこの上ない刺激となり、より積極的なチーム作りに向けた起爆剤となりました。今後も皆様方の叱咤激励のもと、リオデジャネイロの切符を獲得すべくすべてをかけて戦います。今回も練習ゲームのお相手を頂いた高校男子チームの皆様方をはじめ、沢山の方々からの暖かい後押しを頂戴致しました。心より御礼申し上げますとともに、大会のご報告とさせて頂きます。

日韓定期戦を振り返って

女子日本代表チーム主将　高橋　恵

今回の日韓定期戦はロンドンオリンピックアジア予選で戦って以来、約２年ぶりの韓国との対戦でした。日韓定期戦に向けて強化合宿を行う中で、昨年12月のアジア大会と同様に、個々の状況判断能力の向上を第一にトレーニングをしてきました。多くのことができたわけではありませんでしたが、チームとして土台を固めていこうという現段階で、色々なことを試し、何がどれくらい通用するのかを確かめる気持ちで日韓戦に臨みました。

アウェーでの国際試合の雰囲気にのまれる怖さと、勢いを持っていかれた後で立て直すことの難しさを今までの日本は味わってきていました。そのため合宿の中でも「試合の入り」を特に意識してきました。前半のスタート、後半のスタートと日本のペースで試合を運ぶことが出来、この点に関してはコートで結果として出せたと思います。

これから２年かけて克服していく課題はやはり終盤の戦い方です。今回もいい形で試合を運んでいきましたが、終盤突き放しきれず、追い上げられたときに流れを引き戻せませんでした。韓国チームはオリンピックや世界選手権などの大舞台で結果を残している自信から、劣勢でもいつでも落ち着いた試合運びをします。日本がここ数年、韓国に勝ってきた試合は、全てがスタートから主導権を握り逃げ切る形です。そのとき、韓国チームの焦った姿を始めて目の当たりにしたのを覚えています。

今回、勝利こそ出来ませんでしたが、「韓国は戦えない相手ではない」と誰もが感じています。しかし、点差以上の経験・勝負強さ・試合運びの差があることも明確です。これからオリンピック予選までに"韓国を焦らせる試合運び"のできるチーム力を備えていかなければなりません。

なんとしてでも韓国を倒したい。そのために出来ることはまだまだたくさんあります。アドバイスや応援をしてくださるたくさんの方々に、２年後必ず結果でお返しできるよう、これからもトレーニングに励んでいきます。

第12回 女子ジュニアアジア選手権

(2014 世界選手権予選)

12th Asian Women's Junior Championship

(Qualification for Women's Junior World Championship , Croatia, 2014)

	星取表	KOR	JPN	CHN	KAZ	UZB	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓国（KOR）		27○18	37○28	31○15	48○14	4	4-0-0	143	75	68	8
2位	**日本（JPN）**	18●27		35○24	40○34	60○14	4	3-0-1	153	99	54	6
3位	中国（CHN）	28●37	24●35		20○18	37○18	4	2-0-2	109	108	1	4
4位	カザフスタン（KAZ）	15●31	34●40	18●20		33○22	4	1-0-3	100	113	-13	2
5位	ウズベキスタン（UZB）	14●48	14●60	18●37	22●33		4	0-0-4	68	178	-110	0

第12回女子ジュニアアジア選手権大会

団長　津川　昭

2013年6月22日～30日
カザフスタン　アルマトイ
参加国　日本、中国、韓国、ウズベキスタン、カザフスタン
上位4ケ国が2014世界選手権出場

この世代は熊本で行われた女子ユースアジア選手権、そして2012年女子ユース世界選手権に出場し、世界8位という好成績をおさめた年代であり、監督もユースから引き続き、亀井氏に担当頂いている。

2年前、同じ女子ジュニアアジア選手権が同地区で開催され、その時には21人の選手団中19名が腹痛・下痢などの症状を訴えており、多くの日本食を準備した他、ドクターも医薬品の準備などかなり気を使って現地入りした。

日本からの直行便がないため、韓国インチョン経由でのカザフ入りであった。21日午前9時にANTCを出発、アルマトイ到着が22日0時過ぎであったが、結局ホテルにチェックインできたのは午前3時過ぎであった。空港への出迎え、バスの配車、当初のホテルではなく、とんでもない山の中のホテル、しかも規定に反し選手はトリプルの部屋も含まれ、スタッフ用のシングルルームも一室というありさまであった。選手の一室はペット臭があり、結局トレーナー用の部屋へ移動させることになった。また、当然ネット環境も悪く、ホテルロビーで朝のうち何時間かがようやく繋がるありさまであった。

到着翌日、早速2時間ほどのトレーニングを行なったが、比較的標高が高いせいもあるのかコンディショニングを整えるには時間を要しそうであった。

そんな中、日本の初戦は韓国、オープニングセレモニー前のゲームであった。韓国はカザフスタンへ入る前にロシアで強化キャンプを張ってくるなど、万全に近い形で大会入りしている。前大会での日本の成績は4位、本来3位のカザフスタンが初戦で1位の韓国と対戦することになるが、開催国として5番目を選びこのような組み合わせになった。それならば最終試合は当然1位、2位の韓国・中国戦になるはずだが、最終戦は日本対カザフスタン。当初用意されていた試合球もセレクトでAHFが急きょモルテン（各チームの球）に変更するありさま、電光掲示板の操作ミスなど、今後も同国での大会開催には注意が必要と思われる。

結局初戦は【日本　18（11-13、7-14）27　韓国】で敗退。

前半途中まで8対5とリードするものの、退場者を出したところで4連取される。代表戦を含め同じパターンでの敗戦が多い。結局韓国にリードされ、精神的余裕を与えてしまうと、多彩な個人技が出て、手が付けられなくなるように感じる。今回の韓国チームのエースは前回のユース時には不在で、その後育成された選手と思われるが、必ずどの世代にもフェイントが切れ、ミドルも打ててチャンスメークができる選手が存在する。

二戦目の中国は、先に行なわれた東アジアU-22に出場していたのと同チームで、ユースオリンピックゲームズにターゲットを絞ったチーム。監督も代表監督が兼務している。日本のU-22チームが3点差での勝利だっただけに、かなりの緊張感を持って臨んだが、後半、高いディフェンスから相手のミスを誘い、大差で勝利することが出来た。

【第二戦：日本　35（13-12、22-12）24　中国】

一日の休日を経て第三戦はウズベキスタン。実力的には全く問題の無いチーム。ただ代表を含め、いつも大会直前に、ぎちぎちのメンバーで参加するなど、かなり厳しい状況での参加と思われるが、ひたむきにプレーするその姿は大変好感が持てるチームである。

【第三戦：日本　60（30-5、30-9）14　ウズベキスタン】

二日空けて最終戦は地元カザフスタン。テクニカル的には問題のないチームであるが、長身選手が多くあなどれない。

日本は中国戦と同様に高いディフェンスで応戦したが、この日のレフリーは流し気味に笛を吹く（笛が遅い）、そのためホールディングとオーバーステップを帳消しにされる感じで守りきれない。比較的速攻で楽な点が取れ、激しい点の取り合いのゲームを征することが出来たが、課題の残るゲームでもあった。

【第四戦：日本　40（21-15、19-19）34　カザフスタン】

最終的には2位で前回の4位から上げることができ、また来年クロアチアで行なわれる世界選手権への出場権を獲得することが出来た。当初心配された食事や住環境も、慣れるに従い自分達でいろいろ調達し、それなりに快適に過ごすことができた。軽い下痢や腹痛が3～4人出た程度、ホテル側も徐々に日本人に合う味付けを考えてくれたり、洗濯をしてくれるなどホスピタリティー溢れる対応をしてくれるようになった。

全体的には若い女子選手の明るさとたくましさを感じることができたが、過去の実績を見てみるとユースからジュニアになると世界選手権の成績を大きく落としている。大学下級生で試合経験が不足してしまうのか等々、原因はいろいろ考えられるが、一番伸びしろの大きい時だけに、継続した強化活動を展開し、より充実した強化体制の中で来年の世界選手権に臨めるようにしたい。

最後になりましたが、選手を派遣してくださった所属チームの皆様、遠征に際しいろいろご手配頂いた皆様方に感謝申し上げ、報告とさせて頂きます。ありがとうございました。

第12回女子ジュニアアジア選手権報告

U20女子監督　亀井 好弘

1．期　間　平成25年6月23日（日）～29日（土）

2．場　所　カザフスタン・アルマトイ

3．参加国　日本、韓国、中国、カザフスタン、ウズベキスタン

4．競技方法　1回戦総当りのリーグ戦方式

5．選手団　スタッフ5名（団長、監督、コーチ、ドクター、トレーナー）、選手16名

6．大会運営

①カザフスタン最大都市のアルマトイ中心地の体育館で空調設備の整ったハンドボール専用コートで実施。

②電光掲示板が、機能しなくなるハプニングがあったが、試合運営については、概ね問題なかった。

7．試合結果　1位　韓国、2位　日本、3位　中国、4位　カザフスタン、5位　ウズベキスタン

8．事前合宿

第1回強化合宿　平成25年5月24日（金）～31日（金）

第2回強化合宿　平成25年6月12日（水）～21日（金）

9．戦　評

（韓国戦）大会初戦は韓国（できれば、韓国と他国との試合を観戦した上で、戦いたかった）。試合前半、韓国のプレスDFに対し、うまくスペースを攻撃し得点していたが、韓国が一線DFに変更すると、決定力不足によりペースを握られ、失速した。韓国の一線クロスアタックDFに対し、パスワークとポジショニングにより、ずれを攻撃するトレーニングをしていたが、試合で機能させるまでには、至っていなかった。後半、韓国のセンタープレーヤー（フェイント、ランニングステップ、展開力がある選手）の守り方が徹底できなかったことが悔やまれる試合であった。

（中国戦）第1回U22東アジア選手権に出場していた中国チームが、ユースオリンピック強化チームであり、同じ選手構成でジュニアにも出場するだろうという情報を頂いていたので、事前にビデオを入手し、戦い方を強化合宿中にトレーニングしていた。大型でシュート力があるので、①スピードを持った状態でボールを持たせないこと、②動き始めのボールカット及びファールを狙うこと、③隣のDFはフォローできる位置にいること、④ずれた時は、クロスアタックの位置取りをとること、⑤クイックスタート、⑥OFはポジションチェンジ、システムチェンジにより、ワイドに攻め、パスワーク等により相手DFを孤立させた局面を攻めること、などにより後半優位に試合を運ぶことができた。

（ウズベキスタン戦）カザフスタン入りする前に、過去の女子フル代表のビデオ（日本VSウズベキスタン）を見て、少しイメージを持っていたが、今大会では相手チームの戦力が劣っており、全ての面において終始優位に試合をすすめることができた。

（カザフスタン戦）中国と同じ戦い方を確認し、コートに送り出す。全てがうまく連携して機能していたわけではないが、コート上である程度、表現することで、試合は比較的優位に運ぶことができた。

9．特記事項

①強い個の育成

2位で終えた大会であるが、韓国とは各ポジションでの個

人の差、チームの完成度など、日本との差を認めざるを得ない部分があった。また、中国も以前より走れるチームになっており、カザフスタンも従来の戦術とは違った攻撃をしていた。各国の強化に対し、日本も強い個の育成により、チームとしての総合力を高めていく必要があると感じた。

②悪条件の中で戦うたくましさ

日本での練習環境は、ANTC などのおかげで非常に整っており、快適である。しかし、国外での試合となると、ホテルや試合会場の環境、食べ物等、計画通りにいかないこともある。そういった中で、自分のパフォーマンスを十分に発揮し、勝ち抜いていく必要がある。

10. 最後に

大会期間中、外務省の方や現地の日本人の方に、観客席で日の丸を掲げて応援して頂いたことは、我々にとって非常に心強かった。そういった人たちからの現地の情報や、アドバイスも貴重なものとなった。

今回、選手の心・技・体をしっかり鍛え、個々の能力を引き出し、試合で表現させることができず、「アジア№1」を奪還することは叶いませんでした。悔しい思いでいっぱいでありますが、若い世代からの継続的な強化活動により、近い将来、日本のハンドボールがオリンピックの舞台で活躍することを願っています。

最後になりましたが、大会に参加するにあたり、ハンドボール関係者から多くのご協力、ご支援を頂き、また、快く選手を派遣していただいた各校には、心から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

第 12 回女子ジュニアアジア選手権報告

U20 女子キャプテン　河野　萌

第 12 回女子ジュニアアジア選手権が 6 月 21 日から 6 月 29 日までカザフスタンのアルマトイで行われました。大会までに二度の合宿を行いましたが、各大学の関係で全員がそろうことが少なく不安もある中で今大会を迎えました。

今大会は初戦から韓国という厳しい戦いで始まりました。前半は積極的なディフェンスから相手のパスをカットして速攻など、日本らしいプレーで韓国にくいついていきましたが、後半の立ち上がりから流れが作れず、相手の速攻などで差を広げられたまま試合を終えることになり、悔しい敗北で初戦を終えました。

二戦目は体格差のある中国との対戦でした。前半はなかなか差を広げることができず、シーソーゲームのまま終わりましたが、後半は集中を切らすことなく、プレスディフェンスからの速攻やカットインなどで流れをつくり、初戦の敗北を力に変え差をつけて勝利しました。

三戦目のウズベキスタン戦は力の差があり、終始日本の持ち味であるディフェンスから速攻をし、全員が得点を決め、勝利しました。

最終戦は地元カザフスタンとの対戦でした。力の差はあったと思うものの、あまり差が開かないままゲームが進んでいきました。しかし、地元カザフスタンの声援にひるむことなく集中して最後までプレーをして勝利し、今大会を 2 位で終え、無事に来年の世界選手権への出場権を獲得することができました。

今大会にはカザフスタンでお仕事をされている方や、大使館の方などが会場に足を運んでくださり、応援していただき、とても力になりました。本当に感謝しています。ありがとうございました。

これからまた、各大学、高校に戻って練習を重ねますが、今大会の経験を一人一人が決して無駄にすることなく、来年の世界選手権に全員がレベルをあげて挑めるように日々の練習に取り組んでいきます。

戦評

■6月23日（日）

日本　18（11-13，7-14）27　韓国

韓国スローオフで試合開始。先制点は日本4番佐々木のカットインシュートで先制。韓国のセンターバック5番にランニングシュートを許し得点される。日本は0 6DFのゾーンディフェンスで韓国のフェイントに対応し、田村のボールカットから速攻、堀川のサイドシュートで得点。韓国もポストプレー、リバウンドを押込み得点する。日本も築山の速攻、佐々木のカットインで得点し、8対5。日本リードを保つも、堀川の退場から韓国に4連取を許し、韓国に逆転され、日本タイムアウト。築山のカットインで7mスローを獲得し、佐々木が決め11対12。前半を11対13で韓国リードで終了。

後半に入り、日本は韓国5番にマンツーマンを仕掛けるもオフェンスミスから6連続失点を許し苦しい展開。佐々木、上田が積極的にディスタンスシュートを狙うが決めきれない。韓国はサイド・カットインで着実に得点を重ねる。日本はGK水落が必死にゴールを守るも18対27で韓国に敗れる。

[個人得点] 佐々木：9点、田村：4点、築山：3点、堀川・三田：1点

■6月24日（月）

日本　35（13-12，22-12）24　中国

2戦目は中国との対戦。日本は中国の高さに対応すべく、3-3DFを引き、ディスタンスシュートを防ぐ。開始、中国にポストシュート、ミドルシュートで2連取されるも、森のサイドから4連取する。中国もポストにボールをあつめ得点をかさねる。日本は、河野の速攻から2連取し、中国の退場を誘い、日本が優位に試合を運ぶ。中国もサイドから得点をするも日本の高いDFが機能し、16分7対4でリード。その後、日本のミスから中国に速攻とサイドで得点され、日本はタイムアウトを請求。タイムアウト後、佐々木のステップ、上田のサイドで得点をかさねるも、中国もカットイン、ポストで得点し、前半を13対12で折り返す。

後半に入り、森の1対1から築山のカットインで得点し、水落の好セーブからの速攻や、セットOFでミドル、カットイン、サイドからの得点でバランスよく攻め、中国を圧倒し、35対24で中国に勝利した。

[個人得点] 森：8点、佐々木：7点、岩崎：6点、田村：5点、北原・築山・河野：2点、堀川・深田・上田：1点

■6月26日（水）

日本　60（30-5，30-9）14　ウズベキスタン

女子ジュニアアジア選手権3戦目は、ウズベキスタンとの対戦。ウズベキスタンのスローオフで試合が開始。日本は開始早々4連取でスタートし、開始6分38秒5対3から19連取し、前半を30対5で終了。後半はメンバーを入替え、7連続得点をあげ、全員得点で後半30対9。TOTAL60対14で試合終了。

最終戦のカザフスタン戦に向け、コンディションを整え、大型のカザフスタンから勝利を目指す。

[個人得点] 佐々木：10点、岩崎・三田・田村：7点、松本・秋山・森：5点、永田・深田・北原：3点、築山：2点、堀川・上田・河野：1点

■6月29日（土）

日本　40（21-15，19-19）34　カザフスタン

女子ジュニアアジア選手権4戦目は、カザフスタンとの対戦。ホームのカザフスタンスローオフで試合が開始。開始早々、高い3-3DFから素早くボールを奪う作戦がはまり、3連取に成功。右45にカットインで得点されるが、秋山のサイド、森のカットインで2連取し、前半8分カザフスタンの退場を機に4連取に成功する。ここからアウェーの洗礼が始まり、なかなかリズムに乗れない。前半を21対15で終了。

ハーフタイムでは、DFの再確認とリスタートの徹底、レフリーの判定にリズムを崩さないよう確認を行い後半に臨むU-20。

後半開始、右サイドキャプテンの河野がサイドで得点し、ここからお互いに得点を取り合い、日本は開始8分3連取に成功するもカザフスタンに2連取を許す。判定にリズムが作れない中、カザフスタンの7mスローを藤田がシャットアウトし、レフリーの判定に戸惑いながらも流れをカザフスタンに渡さない。日本はリードを保ちながら、退場にならないようお互いに点を取り合い、40対34でタイムアップ。

[個人得点] 田村：8点、佐々木：7点、河野：6点、築山：5点、森：4点、三田：3点、堀川・秋山：2点、上田・北原・岩崎：1点

第1回 U-22 東アジア選手権

1st East Asian Handball Championship U-22

開催地：韓国　天安市（チョナン市）　　会場名：Yu Gwan Soo Gymnasium　　日　時：2013年5月30日（木）～6月4日（火）

男　子		KOR2	KOR1	JPN	TPE	CHN	MAC	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓体大（KOR2）		28○17	32○30	27△27	36○23	40○11	5	4-1-0	163	108	55	9
2位	慶煕大（KOR1）	17●28		37○32	30○29	32○22	46○19	5	4-0-1	162	130	32	8
3位	日　本（JPN）	30●32	32●37		33○27	46○24	55○17	5	3-0-2	196	137	59	6
4位	台　湾（TPE）	27△27	29●30	27●33		37○19	33○19	5	2-1-2	153	128	25	5
5位	中　国（CHN）	23●36	22●32	24●46	19●37		39○20	5	1-0-4	127	171	-44	2
6位	マカオ（MAC）	11●40	19●46	17●55	19●33	20●39		5	0-0-5	86	213	-127	0

女　子		KOR	JPN	CHN	TPE	HKG	数	勝-分-敗	得点	失点	差	点
1位	韓体大（KOR）		27○24	34○20	36○20	41○5	4	4-0-0	138	69	69	8
2位	日　本（JPN）	24●27		27○24	32○12	42○13	4	3-0-1	125	76	49	6
3位	中　国（CHN）	20●34	24●27		28○24	35○16	4	2-0-2	107	101	6	4
4位	台　湾（TPE）	20●36	12●32	24●28		33○17	4	1-0-3	89	113	-24	2
5位	香　港（HKG）	5●41	13●42	16●35	17●33		4	0-0-4	51	151	-100	0

第1回U-22東アジア選手権大会総括

U-22日本代表団長・男子チーム監督　松井 幸嗣

今年から新設された第1回U-22東アジア選手権大会は、韓国・天安市（チョナン市）で男子5か国（6チーム）、女子5か国（5チーム）が参加し、5月30日から6月4日まで開催され、男女ともに開催国韓国が優勝し閉幕した。日本もU-22男女の代表が参加した。男子は大学生中心のメンバー構成であり、女子も実業団選手を含めた大学生主体のメンバー編成で臨んだ。大会は男子6チーム、女子5チームの総当たり（リーグ戦）で順位を決定した。

男女で優勝した韓国は2015年のユニバーシアードでハンドボール競技が採用されることもあり、その宣伝効果の為の観客動員等も熱の入った大会運営であった。しかし一方で国際大会でありながら単独大学チームの出場やレフェリーの割り当て等に首をかしげる場面も感じられた。日本は男女とも大学生中心のメンバーで大会に臨んだが、大会前には各地区の春季リーグ戦等もあり、少ない準備期間での大会参加であった。

大会のスコア、戦評は前号で掲載したが、今大会での収穫を挙げるとすれば「完全にアウェイな状況での試合経験」「アウェイのプレッシャーがかかる中で試合をやれたこと」である。男子はオープニングセレモニー直後の第1戦、集まった地元の観衆や中学生・高校生が館内を埋め、アウェイ独特の雰囲気に包まれた。また最終日、女子は韓国体育大学と対戦し勝利したチームが優勝、男子も同じく韓国体育大学を相手に大事な一戦を大観衆の中で試合をしたことが日本では味わえない貴重な経験であった。また、これは収穫ではないが、今大会では男女ともに韓国に敗れた。日本の代表チームが韓国の単独チームに負けたということは大きな問題として受け止めなければならない。いずれにしても今大会での収穫や反省を今後きちんと「形」にして活かしていくことが日本代表U-22チームのスタッフ・選手に与えられた課題である。

来年は世界学生選手権大会（ポルトガル）が開催予定であり、再来年にはユニバーシアード大会も開催される。今回を反省し悔しさを忘れず、継続してさらに強化していきたいと思っている。

最後になりましたが、今大会に際して多くの方々のご支援、ご協力にお礼申し上げます。

第1回U-22東アジア選手権大会を振り返って

U-22日本代表男子チーム主将　元木 博紀

私が今回、第1回U-22東アジア選手権に参加して感じたことは韓国勢との差でした。日本に比べて個人個人のフェイントの技術や判断力が優れていました。また戦術面でもポストを絡めた動きや緻密なセットプレーが随所に見られレベルの高さを感じました。ディフェンス面でもパスカットやチャージングのチャンスを狙っており、当たりの強さだけではなく相手のミスを誘い込む巧さも感じました。しかし圧倒的な差を感じたわけではありません。日本の速攻やクイックスタートは十分通用し、多くの得点を取ることが出来ました。課題となったのはディフェンスと大事な場面でのミスの多さでした。ディフェンスは1対1をきっかけに崩されノーマークを作られてしまいました。ディフェンスの低くなったところからミドルシュートなども打たれ、いろんなところから点を取られました。ディフェンスの連携をとれていなかったのと、受け身に回ってしまったのが原因だと思います。また大事な場面でのミスも勝ちきれなかった原因の一つです。ここで一点欲しいという場面でミスをしてしまい、速攻で点を取られてしまいました。そのようなことはなくさなければならないし、大事なところで点を決められる力をつけることが勝つためには必要であると感じました。

今後の練習では、今回の大会で出た反省を生かし、個人のスキルはもちろんのこと、あらゆる場面での連携を高めていきたいです。韓国は正確なパスワークからのボール展開から確実なチャンスを作り出してきたが、私達は持ち味の速い攻めにおいての関わり合いの精度をより一層上げていき、相手よりも多くの点数を取るゲーム運びが出来るようにしていけば良い結果が出せるはずです。むしろ、ゆとりある試合展開ができると思います。今回の貴重な経験を無駄にしないように、しっかりと自分たちの糧としていきます。

第1回U-22東アジア選手権大会を振り返って

U-22日本代表女子チーム監督　栗山 雅倫

2013年5月30日から6月4日にかけて、韓国・チョナン市において、第1回U-22東アジア選手権大会が開催されました。今大会に臨む女子代表チームは、年代的にナショナルチームに直結することから、ナショナルBチーム的な位置づけと捉え、代表チームのスタッフがそのままチームを預かることとなり、日韓戦に引き続き韓国での大会を迎えました。

女子チームの参加国は、中国、チャイニーズタイペイ、香港、韓国、そして日本の5カ国となり、総当たりのリーグ戦を行いました。結果、3勝1敗の準優勝で大会を終えました。

大会までの準備は、各地での学生リーグの終了を待って、5月21日の招集で、実質1週間足らずの準備で臨むことを余儀なくされました。メンバーはナショナルメンバーを含む15名とギリギリの人数で臨みました。

初戦、チャイニーズタイペイは強いフィジカルを武器としたスタイルのチームであり、大学ハンドボールがフル代表の大半を占める事情の国とあって、全く油断の出来ない状況での対戦となりました。出だしこそ若干の緊張が見られたものの、ナショナルと同じスタイルを求めた機動的なディフェンスからの速攻が功を奏し、終わってみれば危なげない勝利をおさめることが出来ました。

ついで大会2戦目の中国との対戦。190㎝クラスのプレーヤーを何枚も有する中国は、こちらもフル代表のスタッフがそのままチームを指揮する陣容であり、苦しい戦いを強いられました。序盤、相手のミスにつけ込みリードを奪うものの、高さをフルに活かした中国の攻撃にリズムを崩され、若さも手伝ってミスを連発し、後半残り10分頃には逆に2点のリードを許す展開となりました。その後落ち着きを取り戻し、逆転に成功しましたが、今後の中国の脅威を強く感じました。第3戦、一日の休息を挟み迎えた香港戦、こちらは力の差もあり、全員が活躍した上での大差での勝利となりました。

いよいよ迎えた決戦の韓国戦。韓国体育大学の単独チームで大会に臨んでいるだけに、大会を通してみせる完成度の高さは他チームを圧倒するものがありました。対する我々日本チームは、今大会の参加メンバーから、ナショナルプレーヤーの発掘にも繋げたい目論みもあり、なんとかしっかりと戦い合い、勝利を現実的に見据えた中で、ゲーム展開をしたいと考えておりました。試合開始早々、韓国は得意の個人スキルを活かしながら、機動的な攻防を展開してきました。我々もなんとか食い下がり、途中何度も大量リードになりそうなゲーム展開を必死に食い止め、後半途中には2点差まで詰め寄り、一時は土俵際まで追いつめる勢いでした。しかしながら最終的には序盤に許したリードを返しきれず、3点差での敗戦。準優勝にて大会を終了致しました。

トレーニングした日数も少ないため、豊かなコンビネーション等はあまり望めるものではありませんでしたが、それでも選手諸君は戦い方のコンセプトを良く理解し、懸命に戦ったことは間違いありません。あらゆる意味での戦術性は、決して韓国に劣るものではないとも感じております。一方で今大会の有りようが、現在のこの年代の潜在的な課題であることも認識せざるを得ません。大学生年代においても、韓国のコンタクトの強さ、それを当たり前のように受け入れてのゲーム運びは、日本国内では多く見られません。また、韓国選手の個々のスキルはやはり優れており、日本選手も日々のスキル向上の努力を緩める訳には行きません。その他、大会では多くの大会関係者から、日本選手の質の高さの評価を頂いたことも重ねてご報告致します。大会では試合ごとの優秀選手が選出され、錦織選手、川村選手、原選手、松村選手が各試合のMVPに選ばれ、大会を通したベスト7には錦織選手、角南唯選手が選出されました。このような選手たちが将来のナショナルを担い、強い日本の屋台骨になってくれることを願って止みません。

最後となりましたが、大会を迎えるにあたって、準備を主体的に担って頂いたインストラクターの古橋先生（小松市立高校）、大森先生（高岡高陵高校）をはじめ、皆様方のご協力に深く感謝申し上げます。

第1回U-22東アジア選手権大会を振り返って

U-22日本代表女子チーム主将　川村 杏奈

2013年5月30日から6月4日にかけて、第一回U-22東アジア選手権が韓国・チョナン市で開催されました。韓国では、ソウルカップ、日韓戦そしてU-22東アジア選手権開催と国際大会を集中的に開催していたこともあってか、大会は観客動員等、初日から盛り上がっていたように感じました。そんな中、日本チームは大学生を中心としたメンバーで、21日からナショナルチームと一緒に練習をさせていただき、攻撃も防御も同じコンセプトで大会に臨みました。

大会では台湾、中国、香港に勝利し、最終日に韓国（韓国体育大学）との全勝優勝をかけての一戦となりました。中国戦では、高さに苦戦しつつも「最後まで粘れば日本の勝ちだ。」という栗山監督の言葉を信じ、戦い抜き貴重な一勝を手にしました。韓体大戦では完全アウェーな状況での試合ではありましたが、気負うことなく攻撃的なDFを武器に臨みました。しかし、結果として敗戦してしまい、2位という形で大会を終えました。日本の代表チームが韓国の単独のチームに負けてしまったという現実を受け止め、個人のパフォーマンス、戦術的能力を磨いていくべきだと考えます。

どの試合をとっても課題は残りましたが、国際大会で試合を経験しながら課題を見つけることができ、成長を感じながら試合に臨めたことは、この上ない環境だったと感じております。このような貴重な経験をさせていただいたことや、応援してくださったたくさんの方々に感謝しています。ありがとうございました。

短い準備期間での即興チームではありましたが、やるからには優勝しようという気持ちを全員が持ち、所属関係なく叱咤し合える関係を作り上げられたことは価値のあることだと思います。今回の大会で出た課題をそれぞれが克服・レベルアップし、ナショナルチームとして日本を代表し、共にリオデジャネイロオリンピックを目指せる選手になるために精進してまいりたいと思います。

高松宮記念杯

第3回 全日本社会人ハンドボール選手権大会

最終順位

【男子】		【女子】	
優勝	大同特殊鋼	優勝	オムロン
2位	大崎電気	2位	北國銀行
3位	豊田合成	3位	広島メイプルレッズ
4位	トヨタ車体	4位	三重バイオレットアイリス
5位	湧永製薬	5位	ソニーセミコンダクタ
6位	トヨタ紡織九州	6位	香川銀行T・H
7位	トヨタ自動車東日本		
8位	HONDA		
9位	琉球コラソン		
10位	北陸電力		
11位	大同クラブ		
12位	八光自動車工業		
13位	トヨタ自動車		

個人賞

【男子】	【女子】
[優秀監督賞]	
末松　誠（大同特殊鋼）	黄　慶泳（オムロン）
[MVP]	
野村喜亮（大同特殊鋼）	藤井紫緒（オムロン）
[ベストセブン]	
久保侑生（大同特殊鋼）	藤間かおり（オムロン）
東長濱秀希（大崎電気）	宋　海林（広島メイプルレッズ）
信太弘樹（大崎電気）	石立真悠子（オムロン）
今村彰伸（豊田合成）	横嶋　彩（北國銀行）
小澤広太（大崎電気）	澤田智美（オムロン）
山城貴志（大同特殊鋼）	鮴場雅予（北國銀行）
加藤嵩士（大同特殊鋼）	横嶋かおる（北國銀行）
[最優秀新人賞]	
高　景洙（大同特殊鋼）	原　希美（三重バイオレットアイリス）

大会を振り返って

全日本社会人ハンドボール連盟理事長 春日井 条治

本年度で「第３回」を迎える「高松宮記念杯全日本社会人ハンドボール選手権大会」を山口県周南市にて開催いたしました。まずは大会開催に際し、山口県・周南市・中国ハンドボール協会・山口県ハンドボール協会ならびに大会関係者の皆様方、ご協賛頂きました企業様、他数多くの方々のご尽力・ご協力の賜物であり心より感謝とお礼を申し上げます。

今大会も昨年に引き続き「東日本大震災復興支援大会」とさせていただき、周南観光コンベンション協会の全面協力のもと大会会場内での物産展や小学生とのチャリティマッチなど復興支援活動を精力的に活動していただきお礼申し上げます。

さて、第３回大会は男子13チーム、女子６チームの出場となり、男子は昨年度優勝の大崎電気、準優勝のトヨタ車体、３位の大同特殊鋼、４位の湧永製薬をシードとし、予選トーナメントを勝ち上がった４チームによる決勝リーグ戦、女子は３チーム毎に分かれ予選リーグを行い決勝トーナメントにて優勝を争いました。

大会の内容につきましては数々の白熱したゲームが続き、男子決勝リーグは予選を勝ち抜いた大崎電気、トヨタ車体、大同特殊鋼、豊田合成の４チームでの優勝争いとなり、男子ファイナルは共に２勝の大崎電気と大同特殊鋼。共に勝てば優勝の両チームの対戦は序盤大崎電気が４連続得点などで優位に進むものの、中盤より大同特殊鋼が追い上げる展開となり、11対10と大崎電気１点リードで前半が終了する。後半は開始早々、大同特殊鋼が４連続得点で一気に逆転、その後は両チーム譲らず一進一退の攻防が続き、終盤大崎電気の猛追をかわした大同特殊鋼が第３回大会優勝の栄冠を獲得しました。

女子は昨年優勝の広島メイプルレッズを破った北國銀行と２年連続２位に甘んじたオムロンが決勝で対戦。前半５分過ぎより８連続得点したオムロンを中盤より北國銀行が追い上げる展開となり、14対10オムロンリードで前半が終了する。後半両チームとも硬いディフェンスで譲らず一進一退の攻防が続いた結果、前半のリードを守りぬいたオムロンが第３回大会優勝の栄冠を獲得しました。

この大会は今年度最初の全国大会であり男子３位豊田合成、女子４位三重バイオレットアイリスなど新しい力の活躍を見ることができました。また選手全員がこの大会の意義にふさわしく多くの観客に感動と勇気を与えてくれるプレーを見せていただき、心より感謝いたします。

最後になりますが、今後のハンドボールの発展の為、「全日本社会人ハンドボール連盟」としても、種々の施策を模索しながら貢献して行く所存です。これまで以上のご支援・ご鞭撻をお願いしながら、大会終了の報告とさせて頂きます。

[男子優勝] 大同特殊鋼

大同特殊鋼監督　末松　誠

はじめに、高松宮記念杯第3回全日本社会人ハンドボール選手権大会を開催するにあたり、ご尽力頂きました全日本社会人連盟をはじめ日本ハンドボール協会、地元山口県ハンドボール協会、ならびに関係各位の皆様に改めて心より厚く御礼申しあげます。

この度、高松宮記念杯第3回全日本社会人ハンドボール選手権大会で優勝を果たすことができ非常に嬉しく思っております。

これも一重に日頃から大同特殊鋼ハンドボール部を支えて下さっているチームの関係者の皆様を始め、多くのファンの方々の力があってこその結果だと思っております。また選手一人一人が今年のチームスローガンでもあります「挑戦」する気持ち、行動を、常日頃の練習、試合で継続して行い闘い続けた結果でもあります。

今大会を振り返ると初戦のHONDA戦から良い形で勝利を納める事が出来、非常に良い雰囲気のまま決勝リーグへと進む事が出来ました。決勝リーグではトヨタ車体、豊田合成、大崎電気といずれも厳しい戦いが続きましたが、選手兼コーチの武田選手、主将の地引選手、副主将の岸川選手等、中心選手達がチームを良くまとめてくれ、厳しい戦いにも持ち前の「チームワーク」で乗り切り最高の結果を出してくれました。

今年度は特に選手達一人一人がチームの勝利の為に自ら考え、自ら行動に移し、練習、試合に積極的に取り組む姿勢が強く見られます。そんな選手達の姿を見て、感動を覚えると共に、私自身もとても刺激を受けています。これからも選手達が思い切ってプレーをし、最高の結果を出せるよう最大限のサポートをしていきたいと思います。

最後に全日本社会人選手権優勝という今年度最高のスタートをきることができましたが、この結果に満足することなく、日々向上心を忘れずに「挑戦」し続け、これから先も選手共々頑張りたいと思います。

今後とも大同特殊鋼ハンドボール部に変わらぬご声援宜しくお願い致します。

[女子優勝] オムロン

オムロンヘッドコーチ　黄　慶泳

先ずは社会人大会の準備と開催、運営にご尽力頂きました関係者の皆様方に改めて感謝申し上げます。

素晴らしい環境の中で大会に参加できましたし、多くの観客がいる中で選手たちも後押しされながら高いモチベーションの中で戦えたと思います。本当にありがとうございました。

今年度はオムロン創業80周年の記念の年でもあります。何としても一つでも多くのタイトルを取りたいとの強い思いがある中で、今回の社会人大会で先ず一つ目のタイトルを取ることができてとても嬉しく思っております。

大会の準備段階では、昨年度までチームを引っ張ってくれた韓国の金選手とベテランの巻選手の引退で今年の戦いに不安を感じる部分がありました。大会に入ってからも初戦から苦戦を強いられる状況でありましたが、試合を重ねていく度にチームが少しずつ纏まった様な気がします。

優勝の原動力となっていたのは、今までチームの軸になっていた主力選手達の役割が大きかったのは勿論のことでありますが、何よりも抜けた２人の穴を埋めてくれた交代選手たちの活躍があったからだと思います。

他のチームも世代交代の流れの中で、色々と模索しながら苦戦している状況ではありましたが、今後は各チームがより強くなって安定した戦いができることを実際感じております。それを踏まえてオムロンも現時点の課題を修正しながら、若手と中間層の経験を伴う成長が今年の大きな宿題であると再認識しております。個々の成長は勿論のこと、チームとしても何かを一つでもプラスワンにできるように様々な角度から取り組みたいと考えます。

シーズンは始まったばかりでこれからはより厳しい戦いが予想されます。日々進化し続けるオムロンである様に色々とチャレンジしながら頑張りたいと思いますので、引き続きご声援よろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。

オムロンキャプテン　藤井 紫緒

７月３日～７日まで、山口県周南市で全日本社会人大会が行われました。新チームとなって最初の大会、緊張感のある中で臨んだ予選リーグ１試合目は昨年の社会人大会初戦と同様に香川銀行との対戦。初戦ということもあり硬さがあり、リードを許す局面もあったが徐々にペースを掴み 23 対 21 で初戦を白星でスタートできました。

２試合目は北國銀行との対戦。序盤からディフェンスが機能し速攻でペースを掴む内容の戦いとなりました。後半に入り退場者が増え失点を許す展開となり追いつかれる場面もあったが 26 対 25 で予選リーグ１位通過を決めました。

準決勝はＡグループ２位の三重バイオレットアイリスとの対戦。前半からディフェンスでリズムを掴みリードを広げるが、後半メンバーチェンジで様々な戦法を試みたが、ミスが増え失点する局面も多々あり反省課題の残る内容ではあった。最初のリードを保ち、26 対 18 で決勝へと駒を進めました。

決勝戦は再び北國銀行との対戦。序盤から相手の攻撃を封じる事に成功し大きくリードを広げた展開ではあった。中盤、エアーポケットの時間帯が長く得点できない状態があり、どの様にコート上で自分達で修復していくのかの課題も残りました。23 対 17 で全日本社会人選手権大会と大会名が変更となったタイトルを手にすることが出来ました。

今大会で、ディフェンスが機能した試合はテンポ良く自分達のリズムで試合を展開出来たが、ディフェンスが崩れた時の素早い対応能力の課題が明確になりました。

この優勝に満足することなく、再度チーム全員で足元を見直し精進していきます。

また、今大会にあたりご尽力いただきました協会関係者の方々、応援していただいた皆様に心より感謝申し上げます。

戦　評

男　子

■決勝リーグ

豊田合成　28（15-11、13-12）23　トヨタ車体

前半立ち上がり、７人攻撃を見せた豊田合成が２分過ぎNo.10長江の速攻からのシュートで先制した。一方トヨタ車体もNo.22門山のカットインやミドルシュートで逆転するも、再び豊田合成No.10長江の速攻からのシュート、サイドシュートで追いつき、１点を奪い合うゲーム展開となった。その後もトヨタ車体はNo.22門山のミドルシュートやNo.10木切倉のカットインやブラインドからのミドルシュートなどで得点。豊田合成もNo.9中島の速攻やミドルシュートにより、22分を過ぎて10対10の同点であった。前半残り６分を過ぎたころからゲームが動き出しNo.15芳仲の速攻、No.20出村のサイドシュートで得点を重ねた豊田合成が15対11で前半を折り返した。

後半に入ってトヨタ車体がNo.15鶴谷の速攻、No.3石戸のミドルシュートで連続得点し２点差としたが、豊田合成No.1GK藤戸の7mTセーブ、No.12GK藤田の好セーブにより流れを止めた。その後リズムをつかんだ豊田合成はNo.13今村のミドル、ステップ、カットインシュート、さらにNo.20出村のサイドシュートで得点を重ねた。後半残り５分トヨタ車体もプレスDFをしかけNo.22門山の連続得点などで追いすがるものの、勢いのある豊田合成が５点差をつけて逃げ切った。

■決勝リーグ

大同特殊鋼　24（10-11、14-11）22　大崎電気

第１回大会優勝の大同特殊鋼と第２回大会優勝の大崎電気により決勝戦。先制は大同No.9武田のロングシュート。その後大崎はNo.24信太の４連続得点などで５対１とする。中盤は大崎No.1GK浦和、大同No.12GK久保の好セーブによりロースコアの展開となるが23分大崎No.10小室の不正入場による退場の間に大同が追い上げを見せ前半を11対10大崎リードの状態で終わる。

後半、大同No.15山城の２得点を含む４連続得点によって開始早々に大同が逆転し14対11となる。その後も大同No.12GK久保の好セーブにより24分で22対17と大同が優位に試合を進める。しかし残り４分を切って大崎がNo.8東長濱を中心に猛追し残り15秒で１点差の22対23まで点差をつめたが最後にDFの隙から大同No.2棚原がダメ押しとなる得点を上げ24対22で大同の勝利となり２年ぶり２回目の優勝となった。大同No.12GK久保の好セーブと地元出身No.3野村の活躍が光る試合であった。

女　子

■３位決定戦

広島メイプルレッズ　24（13-11、11-7）18　三重バイオレットアイリス

三重のスローオフでゲーム開始。立ち上がり三重はNo.19万谷のポストシュートで先制するとその後もNo.20原のミドルなどで加点、５分には３対１とリードを奪う。三重は０－６ディフンスから広島No.7宋にNo.23早船がハーフマンツーでプレッシャーをかける。しかし広島はこの裏のスペースをNo.2高橋が攻め、三重ディフェンスの切り崩しをおこなう。広島はNo.13安齋のサイドシュートを皮切りにNo.2高橋のカットインまで一気に５点連取し、６対３と３点リードを逆に奪う。三重は残り10分でNo.20原がステップシュートなどで４得点し気を吐くが、広島もNo.2高橋が好調でロングシュートなどで加点し、前半を13対11と広島リードで終える。

後半、三重は立ち上がりからNo.20原の速攻、No.21池原のサイドシュートで連取し一気に同点に追いつく。ここで広島はGKをNo.16林からNo.12田口へチェンジ。この交代があたり広島は再びリズムを取り戻しNo.7宋のカットインやミドルなど多彩な攻撃で５点連取し15分には19対14と差を広げた。前半はNo.2高橋、後半はNo.7宋が好プレーを見せた広島が三重を振り切って24対18で勝利した。

■決勝戦

オムロン　23（14-10、9-7）17　北國銀行

北國のスローオフでゲーム開始。No.11翁長の速攻で北國が先制するも、オムロンはNo.7藤井のミドル、No.8石立のカットインで逆転する。北國はその後再三のノーマークシュートチャンスでシュートミスが相次ぎ、オムロンにペースを渡してしまう。オムロンはNo.8石立のカットインがチャンスを作り得点を重ねていき前半半ばには12対３と大量リードを奪う。しかし､ここから北國は１度ベンチへ下げたNo.1寺田を再び投入。オムロンの退場もあり、素早いボール回しからオムロンディフェンスを切り崩し一挙に６点連取し残り５分には９対12と３点差にせまる。オムロンは８分以上もの間、ゴールマウスを割る事ができず、ここからなんとかNo.17東濱、No.11永田のカットインで得点、前半を14対10の４点リードで終わる。

後半は両チームとも高い位置取りでディフェンスをおこない相手の9m内への侵入を許さず、ロースコアの展開になる。ここで北國は前半同様速攻からのノーマークシュートを外し、追い上げのチャンスを逃してしまう。両チームのGKが相手のミドルをファインセーブで抑え10分を過ぎても15対11とスコアが動かない。ここでオムロンは長身のNo.17東濱をベンチに下げNo.5稲葉をバックプレーヤーに起用、素早いクロスからNo.5稲葉自身がサイドシュートを決めペースを掴む。北國はオムロンの退場で数的優位な時間を掴むも7mTを外すなどなかなか波に乗れず、一度開いた点差を詰めきれない。結局、後半半ばからペースを掴んだオムロンが23対17で北國を下し初めての栄冠を掴んだ。

第33回 全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会

【最終順位】

	■男子	■女子
優　勝	渡辺組（神奈川県）	シャトレーゼ HC（山梨県）
準優勝	学石クラブ（福島県）	ガビアーノチップス（神奈川県）
3　位	蓮田クラブ（埼玉県）	やんちゃクラブ（群馬県）

大会を振り返り

県北ハンドボール協会理事長　石田 智宏

全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会も今年で33回目を迎えました。本宮市（旧本宮町）での開催は18年連続で19回目となりました。

例年通り、本宮市総合体育館をメイン会場として、二日間に渡り熱い戦いが繰り広げられました。西日本や関東は猛暑で話題となっていましたが、福島は7月に入っても例年と違い、比較的涼しい日々が続き今大会も同様で、選手にとっては良い環境の中で試合ができたと思います。そのため、日頃の練習の成果を出し切り、接戦や逆転といったいくつもの好ゲームが展開されました。

また、例年とは違い今大会より、東地区・中地区・西地区の3地区で開催され、東地区においては、北信越ブロックが中地区に入ったため、北海道（1）・東北（6）・関東（8）開催地（1）となりました。男子のチーム数は従来通りですが、女子チームは8チームから16チームと倍に増えました。今まで交流のあった北信越のチームが参加しないのは非常に残念なことでしたが、女子チームが増えたことで以前より華やかさを増したように感じられました。しかし、前回大会までは初戦で敗退しても本宮市長杯があり、参加チームは2試合以上試合ができたのですが、今大会より大会日程上敗退して直ぐに本宮を去るチームがでてしまうことは運営する私たちにとっても心苦しさが残りました。ちなみに、本宮市長杯は優勝チームに手渡すということで継続しました。

昨年度より、大会名に「東日本大震災復興支援」という名目が付け加えられました。各チームが福島県に来県し、ハンドボールを通して県民に勇気づけて下さるだけでも非常に有り難いことなのですが、女子の神奈川県チーム「ガビアーノチップス」より福島県の子どもたちのためにということで義援金を手渡されました。福島県ハンドボール協会会員一同、感激と共に感謝しています。スポーツ少年団で頑張っている子ども達のために使わせていただきます。

また、今大会では、選手の皆さんの子ども達を前回以上に目にする機会がありました。ハーフタイムではコートに来て走り回ったり、ロビーで笑顔で会話をする姿を見られたことは私たちにとって励みになりました。まだまだ、復興に関しては、風評被害だったり復興への取り組みが理解され切れていないことは多々ありますが、他県のハンドボール関係者が「福島は大丈夫！」ということで家族で来県して下さるようになったことは嬉しい限りです。

最後になりますが、チーム関係者をはじめ、日本ハンドボール協会・本宮市の関係各位の皆様、「ありがとうございました。」

戦　評

■女子決勝

シャトレーゼH.C.　26（12－9、14－8）17　ガビアーノチップス

開始早々シャトレーゼ9番北井の先制シュートからスタートした決勝戦。激しい攻防が展開される中、開始5分の7mスローを決めたシャトレーゼが勢いに乗り、前半10分で6対3とリードする。相手の連続得点にも動じずペースを守るガビアーノは、正確なパスワークから14番春日のサイドシュート、5番里見のミドルシュートで得点を重ねるが、前半20分で7対11とシャトレーゼに4点リードされる。シャトレーゼはその後もポストを上手く機能させた展開から得点を狙い、前半を12対9とリードを守った。

後半は立ち上がりからシャトレーゼがペースをつかみ、開始7分、2番湯山のポストシュートで17対11とリードを6点に広げると、7番稲吉の連続得点もあり、15分には21対12。追いかけるガビアーノは、2番柳原を軸とする絶妙なパスワークで得点を狙うが、GKの好セーブにも阻まれ、点差が縮まらない。最後まで速攻を続け、確実に得点を重ねたシャトレーゼが26対17で優勝を飾った。

■男子決勝

渡辺組　36（15－15、21－16）31　学石クラブ

スタートから渡辺組がGKの好守と速攻で5連取するが、学石は7番にマンツーマンを仕掛け、8対6と追い上げたところで渡辺組がタイムアウトを請求する。渡辺組は5－1DFに変え、流れを取り戻し、18分13対9と離されかけたところで学石がタイムアウトをとる。21分学石2番の連打で13対13の同点とし、22分8番の速攻で逆転するがすぐさま渡辺組が追いつき15対15の同点で前半を終了する。

後半学石は依然として7番にマンツーマンを仕掛け、両チーム一進一退の攻防を繰り返す。10分過ぎ、渡辺組が4連打で27対23と突き放し、学石がタイムアウトを請求する。しかし、渡辺組の勢いを止められず、36対31で渡辺組が逃げ切り、優勝を飾った。

男子優勝：渡辺組

女子優勝：シャトレーゼ HC

渡辺組監督　伊藤 和広

本大会ご関係者の皆様、今回も滞りなく無事に大会を終えることができました。弊チームを代表し心より感謝、御礼申しあげます。どうもありがとうございました。弊チーム、渡辺組は２年振りの参加でしたが、新たに加わった若手メンバーと共に優勝の歓びを分かち合うことができたことは感慨深く、チームとしても記憶に残る大会となりました。

近年、横浜商工 OB だけでなく法政二高からも渡辺組に加わるメンバーが増えています。ハンドボールという共通語はライバルという壁を超え、ひとつのチームとしての団結力と絆をも生み出してくれました。正に恩師、渡辺靖弘先生のスポーツマン精神と技が受け継がれていることの証だと、私自身、OB として誇らしく思います。そのチームメイトから受けた胴上げはきっと忘れ得ぬ思い出になることでしょう。

今回の優勝が次世代の渡辺組を担う若きハンドボーラーの布石となることは間違いありません。恩師の足跡は脈々と、そして着実に生き続けています。

渡辺組キャプテン　金林 哲平

２年ぶりに今大会に参加し、５度目の優勝を果たすことが出来ました。振り返ると、初日の 1、2 回戦はリズムよく「全員ハンド」で試合を運ぶことができたと思います。２日目の準決勝、決勝進出チームはどこも、技、スピード、粘り強さの全てが優れている精鋭揃い。苦戦が強いられることは想定内でしたが厳しさは予想以上でした。準決勝の相手は関東予選の決勝戦でも対戦した蓮田クラブ。前半は２点ビハインドの苦しい試合展開。ディフェンスシステムを変更して挑んだ後半に試合の流れを変えることができ、辛くも勝利することができました。決勝の相手は地元福島県の学石クラブ。前半は実力伯仲の中同点で終了しました。後半に相手チームの足が止まって来たところを速攻、リスタートとスピードで一気に流れを掴み勝利。第 33 回全国クラブハンドボール選手権東地区大会の頂点に立つ事が出来ました。

練磨に励み、来年もまた福島に戻ってきたいと思います。

シャトレーゼ HC 主将　小松 理子

７月 19 日から 22 日まで福島県で行われた第 33 回全国クラブハンドボール選手権大会東地区大会に初めて出場させて頂きました。

10 名という少人数での参加と大会期間中にケガ人が出てしまうという苦しい状況でしたが、どんな状況でもチームとして何をすべきか、そのために個人では何をするのかを一人ひとりが理解しゲームに臨みました。退場やケガで人数が少なくなった状況でも落ち着いてプレーできたことは今後につなげていける成果だと思います。しかし、簡単なミスから失点を重ねるという課題も残っています。今後の練習で改善して次の大会につなげていきたいと思います。

２日間で４試合という日程は身体的にとても厳しく、その後の体の痛みは言葉では言い表せないほどでしたが、苦しい状況でもチームの仲間と声を掛け合い集中してゲームに臨み、これまで練習してきたことを出せたことはチームにとっても自信につながったと思います。技術面ではまだ足りない部分や、この大会を通して出た課題を週１回という少ない練習の中で改善していきたいと思います。

シャトレーゼ HC は今年でチーム創設 10 年を迎えました。10 年という節目の年に優勝することができたことを嬉しく思い、私自身にとっても思い出に残る大会になりました。このような結果を得られたのは私たちだけの力ではありません。多くの方に力をお借りし成長してこられたからだと思います。これまでチームを支えて、応援して下さった方々、大会前に練習試合をして下さったチームの関係者の方々に感謝したいと思います。

最後に大会の運営に携わって下さった役員の方々、高校生にこの場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

第33回 全国クラブハンドボール選手権大会 中 地区大会

【最終順位】

[会長杯]	■男子	■女子
優　勝	八光自動車工業（株）（開催地）	富山エンジェルス（富山県）
準優勝	ＨＣ新潟（新潟県）	御座候（大阪府）
３　位	SOCIO OSAKA（大阪府）	五ツ星（石川県）
	Ｄ・Ｂ・Ｃ（愛知県）	GET"S（近畿）
[大阪杯]		
優　勝	右肩あがり（奈良県）	ＢＲＨＣ（岐阜県）

中地区大会を開催して

大阪ハンドボール協会理事長　繁田 順子

平成25年7月20日（土）～7月21日（日）に、平成25年度第33回全国クラブハンドボール選手権大会中地区大会（中地区としては第1回）を、第9回大会（平成元年度）以来25年ぶりに、大阪舞洲アリーナで開催しました。

《ブロック改編の経緯》 第16回（平成8年度）より東地区、西地区で大会が開催されていた本大会が、全国理事長会で2年来の案件として改革案が練られてきた。

日本協会Ａ登録の増加／遠距離による経済的負担の軽減／地区が小分けされることによりブロック予選が必要なくなり全都道府県が出場でき、クラブチームの活性化・拡充にもつながる／Ａ・Ｂ級の上級審判審査も近くで行うことができる等の理由により、全国理事長会において全会一致で３地区に分かれて開催することが決定された。

これをうけ本年度より、北海道・東北・関東ブロックが東地区、北信越・東海・近畿ブロックが中地区、中国・四国・九州ブロックが西地区と３地区開催となった。

《中地区試合形式》 中地区においては、平成25年度は近畿、26年度は東海、27年度は北信越ブロックと順次開催を受け持ち開催することになった。試合形式としては北信越・東海・近畿ブロック15府県代表と、開催地出場枠を入れ16チームでトーナメント方式で行い、敗者復活試合を取り入れ最低２試合確保する試合形式を採用した。

《試合結果》 ※決勝は戦評を参照

【男子】 15チーム（１チームが棄権）が参加。一回戦より白熱した試合が繰り広げられた。準決勝SOCIO OSAKA（大阪府）×HC新潟（新潟県）の対戦では試合開始から１点をめぐる好試合となった。お互い３～４点差を付けるも決定とならず、試合終了の笛が鳴るまで勝利の行方はわからなかった。DBC（愛知県）×八光自動車工業（株）（開催地）後半半ばでは１点差の試合であったが、八光自動車の速攻に対応しきれず涙をのんだ。敗者戦では右肩上がり（奈良県）が洛北クラブ（京都府）を破り大阪杯を獲得した。

【女子】 13チームが参加。女子も点差の開かない白熱したゲームが繰り返された。準決勝五つ星（石川県）×富山エンジェルス（富山県）の対戦では富山の速攻、カットインプレー、ミドルシュートがよく決まり、五つ星は退場者が多くリズムに乗りきれなかった。GET" S（近畿）×御座候（大阪府）の対戦は御座候のサイド・ロングシュートがよく決まりGET" Sもノーマークも含めいいシュートを放つもゴールキーパーの再三の好セーブに阻まれた。敗者戦の大阪杯はBRHC（岐阜県）が三重娘（三重県）に勝ち、獲得した。

30年の歴史と伝統を受け継ぎつつも、地域社会参加型ハンドボールとして新たに第一歩を踏み出した今大会を大阪で開催させていただいたことに感謝申し上げます。参加された皆様、楽しんでいただけましたか？　仕事の合間にトレーニングを重ねられ、現役時代と変わらないハンドボールへの思いは必ずや次へと継がれていく事でしょう。また、Ａ登録が少なく参加に至らなかった地域の方、今回は残念でしたが来年愛知県でお会いしましょう。

大会開催にあたり協賛各社、大会役員、審判員、補助員の方々等皆様のおかげをもちまして大会を成功裏に終えることができました。ありがとうございました。

戦　評

■女子決勝

富山エンジェルス　16（9－6、7－7）13　御座候

地元大阪の御座候と元韓国ナショナルプレーヤー柳、元全日本プレーヤー角、若松を擁する富山エンジェルスの対戦。前半開始、御座候はGK仲村の好セーブ、サイド池内、三谷、ポスト太田の得点で５対１とリードする。エンジェルスは、柳と若松のパス交換からポスト沖田とのコンビプレー、若松のプレスディフェンスからの速攻で５点を連取し、13分に逆転、前半を９対６の３点リードで折り返す。

後半も出だしから、若松のゲームメークから着実に得点し、後半15分で７点をリードし、メンバーをチェンジする余裕の試合展開となる。御座候は、後半15分から粘りを見せ、関山、齋藤の得点で追いすがるが16対13でタイムアップ。富山エンジェルスが見事優勝を勝ち取った。

■男子決勝

八光自動車工業　31（13－13、18－10）23　HC新潟

新潟のスローオフで試合が始まり、新潟仲井のポストシュートで得点すれば、八光も高野のサイドシュートで得点。その後、両チームともミドルシュート、サイドシュート、ポストシュートを決め一進一退の好ゲームを展開。前半の中盤、八光高野の速攻が決まり、２点リードする。さらに、新潟仲井の退場で一人少なくなり、八光の速攻が決まり八光３点リードするが、八光のミスをつき新潟も同点まで頑張って前半を13対13で終了。

後半開始早々新潟に退場者が出たが、一進一退でゲームが進んだのは新潟のGK小林の活躍が光った。その後、八光の速攻が決まりだし６点リードする。新潟越前のカットインからのシュートを決めるが、八光も高野がサイドシュートを決め、走り勝った試合であったが、両チームのGKのすばらしいプレーが光った好試合でもあった。

男子優勝：八光自動車工業

八光自動車工業ハンドボール部監督　福島 剛志

大阪開催のクラブ選手権開催という事で、地元開催地の枠で出場をさせて頂くこととなりました。

始めて参加させて頂きましたが全国より強豪クラブが参加されることもあり、大会の目標を設定して臨みました。今年の試合の反省として、同じ選手に同じプレーで失点を重ねるなど試合中のアジャストに時間が掛かる事が多く、そのまま不利な展開で試合終盤を迎える事が有りました。今大会ではそういうプレーや選手に対し試合中にしっかり修正をかけながら良いリズムを永く持続させる事、ディフェンスの連携を強化し効果的にマイボールを作り速攻への早い切り替えを意識する事を課題としました。

初戦、２回戦は順当な試合展開で勝ち進め、準決勝の DBC（愛知県）戦からは勝ちあがってきたチームだけあり、またミスも多く後半中盤まで展開は良くなかったですが、終盤課題であった速攻をまとめる事ができて決勝へ勝ち進むことが出来ました。

決勝は同じく地元の SOCIO 大阪に競り勝ってきた HC 新潟との対戦となりました。

地元開催の意地もあり必ず優勝すべく試合に臨みました。

序盤から一進一退の展開で途中４点差まで広げるも相手のすばらしいプレーもあり前半同点で折り返し。

後半は積極的なプレスから攻撃を分断でき、連戦の疲れからか HC 新潟の足が止まりだしたタイミングで速攻が効果的に出だし、一気に試合を決める事が出来ました。

２日間で４試合を各県の代表チームと戦う事が出来、優勝を勝ち取れた事は大変うれしく思います。

この結果を次の試合に生かして、更に良いチームになれるように努力していきます。

最後になりましたが、今大会をサポート頂きました皆様に厚く御礼申し上げます。

女子優勝：富山エンジェルス

富山エンジェルス　宮川 千佳子

富山エンジェルスはマスターズ大会ではおなじみの 35 歳以上を中心に活動しているチームです。年齢層が高いとはいえ、柳美貞（旧立山アルミ、韓国出身）、角智恵（旧姓林、元ナショナルチームプレーヤー）とその他それぞれキャリアのあるメンバーが集まり、今年、中日本大会の出場権を得ることができました。それに加え、若松里佳（旧北國銀行 2012 オリンピック予選出場）も加わり、優勝を目標に望みました。

１回戦は風見鶏（兵庫）。初戦の緊張からか、誰もが思うように体が動かずロースコアでの立ち上がり。後半になっても自分たちのペースがつかめず、相手チームもベテランでなかなか点差が開かず、辛勝でした。

２回戦は Cheeky（愛知）。体も慣れてきて楽しみながらできた試合だったように思います。３回戦の五ツ星（石川）も若い選手がたくさんいる中走り負けせずに安定した試合展開ができました。このあたりでもう身体はボロボロでしたが…。

とうとう決勝戦。マスターズ大会でも圧巻の強さの御座候。２年前のマスターズで決勝で負け、今回は必ずリベンジと望みました。前半立ち上がり５分経過しないうちに５対１でリードされ、チームの雰囲気も下がりましたが、若松も決勝になり本気モードに…。オフェンスでは技あり（せこい）カットからの単独速攻、ディフェンスでも１人で３人守るプレスディフェンスに相手のオフェンスが崩れ、速攻へつなげる得意のパターンに。エース柳も要所でシュートを決め、GK 滝上、平山の好セーブもあり、前半３点リードでの折返しができました。後半も流れは止まらず、悲願の初優勝 !! みんなが一つになり、チームワークで勝ち取った勝利だと思います。

今回の大会を通してますますハンドボールが面白くなりました。いつまでやるの？と毎年自問自答しながらも、楽しさは増すばかりです。これからもこの素敵な仲間とともに、いつまでもハンドボールを続け、楽しい中にも勝利にこだわり続けていきたいと思います。

今大会を開催していただいた関係者の皆様、本当にありがとうございました。

第33回 全国クラブハンドボール選手権大会西地区大会

【最終順位】

	■男子	■女子
優　勝	ＦＨＣ	徳山クラブ
２　位	ＳＦＩＤＡ山口	熊本クラブ
３　位	総社クラブ	うとスポーツクラブ

大会を振り返り

鹿児島県ハンドボール協会理事長　隈元 俊和

第33回を迎える全国クラブハンドボール選手権大会が今年度から３地区に分かれて開催されることになった最初の西地区大会。鹿児島県姶良市、霧島市を中心に姶良市姶良体育館、姶良市蒲生体育館、霧島市国分体育館、霧島市隼人体育館、吉田体育文化センターの５会場で男女各12チーム（全24チーム）で熱戦が繰り広げられた。

本大会は、九州、中国、四国の３ブロックから県予選、ブロック予選を勝ち抜いたチームがジャパンオープンか全国クラブハンドボール選手権大会の出場権を獲得し参加した。前大会までの２地区制から３地区制に変わったこととで、参加数が増え、社会人チームの全国大会への出場のチャンスが増えた。この事は、仕事をしながら時間をつくり練習を続けてきている社会人にとってうれしいことである。

大会は、男女とも３チームずつの４ブロックに分けられた予選リーグをおこない、各ブロック１位が決勝トーナメントに進出方式で１日目がおこなわれた。競技は予選リーグから熱戦が繰り広げられた。大会２日目は、決勝トーナメントと順位決定戦がおこなわれた。

男子の予選では、12試合中４試合が３点差以内という緊迫した試合が多かった。女子の予選では、４ブロック中３ブッロクで九州地区が１位という九州のチームの活躍が光った。

その中で男子は、FHCがSFIDA山口をやぶり、女子は、徳山クラブが熊本クラブをやぶり優勝を勝ち取った。今大会は、審判のA級、B級の審査もおこなわれ受検者を含め45名の審判団となった。西地区でもおこなわれることで受検しやすくなりレフェリー育成の場と活用されたこと、本県のレフェリーの育成にもよい刺激となったことをうれしく思います。今年度は、３地区に分かれて最初の大会を引き受けた鹿児島県ですが、不慣れで行き届かない点が多く、多くの方々にご迷惑をおかけしました。また、５会場への動線という面でもいろいろ不便をおかけしました。反省点は、次大会以降に生かしたいと考えておりますので、ご容赦いただければ幸いです。

最後になりましたが、暑い中、全力プレーを展開した選手やスタッフ、日本協会をはじめ多くの皆様の支えで今大会が無事終了できましたことに深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

戦　評

■女子決勝

徳山クラブ　20（12－8、8－8）16　熊本クラブ

徳山クラブ小田選手のロングシュートでの得点、熊本クラブ、7mスローを確実に決めるが、４分を過ぎても２対２となかなかスコアは動かない。しかし、徳山クラブの攻撃が優位。４分半すぎ、攻撃の中心、徳山クラブ内冨選手に熊本クラブはマンツーマンディフェンスをつける。これが功を奏し、熊本クラゾ池田選手がミドルシュートを決め１点勝ち越す。しかし、攻撃力のある徳山クラブはじりじりと押し返し、10分熊本クラブの反則退場者で優位をものにし、一気に４点差まで突き放す。途中、熊本クラブがタイムアウトで流れを変えるべく試みるが、徳山クラブのディフェンスを破ることができず、前半は12対８で徳山クラブが４点差リードで前半折り返す。

後半も、内冨選手にマンツーマンディフェンスをつけ徳山クラブの攻撃力をそいでいるが、４点差のまま試合は流れていく。熊本クラブはパスカットなどで流れをつかみかけるが、３点差にするのが精いっぱいで、パッシブプレーで反則を取られたりと、徳山クラブの厚い守りを崩すことができなかった。今大会で攻守とも優位で力のあった徳山クラブが優勝。

■男子決勝

FHC　25（14－10、11－13）23　SFIDA山口

FHCはGK山川を中心としてミスの少ないゲーム運びで筒井亮喜、住田らのバックプレーヤーの得点を中心に前半をリードして折り返す。対するSFIDA山口は、TBKを粘って勝利してきた。中でもGK都地の安定した守りから中谷を攻守の柱として左腕の藤末、堀らのバック陣の確率のよいミドルシュートが光っていた。

後半に入るとFHCが山口の３、４番を粘り強く守り、５点リードでゲームは中盤へ。中盤に入ってもFHCは小林のスピードのある速攻をスローイングには定評のあるGK山川から受けて得点を重ねる。終盤残り10分を切り、山口も足が止まることなくウイングプレーヤー左利き井上の速攻が決まり20対19と１点差に詰め寄った。残り８分山口藤末のカットインが決まり同点に追いつく。さらに井上の速攻で18分に逆転に成功。たまらず福岡がタイムイアウトを取り、中島のサイドシュートで同点に追い付く。残り２分まで22対22の同点から福岡が前本のブラインドステップ、筒井のミドルシュートで粘る山口を突き放した。

男子優勝：FHC

女子優勝：徳山クラブ

FHC 代表　中島 敬人

私たち、福岡県 FHC は 7 月 6 日、7 日に行われた第 33 回全国クラブハンドボール選手権大会西地区に出場し、見事、優勝することができました。FHC は創部 8 年目で約 20 人所属であり、大学でプレーをし、現在、福岡に在住している人たちが集まったチームです。最近は小学校・中学校のチームを指導している選手が多く、なかなか練習に集まれないことがありますが、練習は週に 1 〜 2 回 2 時間程度、福岡大学で行っています。

今年はジャパンオープンの出場を決める九州クラブ選手権大会において、2 回戦で宮崎のチームに惜敗し、決定戦で沖縄のチームに延長戦の末、敗れて、西地区大会に出場しました。1 次リーグでは 1 試合目は広島県の AWC と対戦、24 対 17 で勝利し、2 試合目は熊本県のホンダ熊本と対戦し、20 対 18 で勝利しました。2 試合とも FHC の住田のロングシュート、筒井のカットインなどの活躍があり、得点することができました。しかし、オフェンスのミスからの失点が目立ちました。トーナメント 1 回戦は岡山県の総社クラブと対戦し、FHC 小林の速攻、栗崎のポストシュートなどの活躍があり、27 対 20 で決勝に進むことができました。決勝は山口県の SFIDA 山口と対戦し、前半は住田や筒井が得点を重ね、14 対 10 で折り返しました。後半はディフェンスで足が止まり失点し、自チームのミスから速攻され、残り 10 分のところで 21 対 22 と逆転されてしまいました。タイムアウトを取り、ディフェンスを集中して、オフェンスではじっくり攻めることを確認して、そこから 4 連続得点をし、25 対 23 で優勝を決めることができました。

今回の大会は気温も高く、参加選手も少なく、とても過酷な大会でした。しかし今年、加入した筒井、小林の活躍があり、試合を重ねながら話し合って、プレーを合わせていくことで優勝することができました。まだまだ課題がたくさんありますが、練習を重ね、レベルを上げていきたいと思います。

最後に今回、大会に携わっていただいた日本ハンドボール協会の方、鹿児島県協会の方、審判・役員の皆さん本当にありがとうございました。

徳山クラブ　井上 美喜

新メンバーが加入して初めての大きな大会でした。県内大会が少なく、練習不足で不安がありながらの鹿児島入りでした。

予選リーグでは、暑さもあり前半はミスも重なり、守って速攻のリズムにのれなかったです。後半、メンバーを入れ替えながら、相手 OF に対応して最後まで速攻をすることができたと思います。

決勝では 10 番内富にマンツーマンをしかけられ、攻めが思うようにいかない時間がありました。それでもセンター下崎を起点にポストをからめながら、右サイド中倉のサイドシュートなどで加点。さらに、速攻で攻められるようにしたかったので、DF をきちんとやることに集中。CP は全員得点で、それぞれが自分の仕事をきちんと果たしたことで優勝できました。

今大会、優勝できたことによって新メンバーとも、より絆が深まりました。

徳山クラブは 50 年以上前から続いているクラブです。たくさんの OB・OG の支えがあるなか、活動しています。現在のメンバーは出身中学、高校がバラバラで、教わってきたハンドボールのカラーは違いますが、ハンドボールが大好きで、楽しくハンドをやりたいという気持ちは一緒です。たまにサッカー、バレー、バドミントン部になることはありますが、毎週楽しく練習しています。

現在は 8 月 17 日から地元山口で開催される、国体中国ブロック予選に向けて練習しています。ありがとうございました。

～アピールの必要性～

企画・広報委員
早川　文司

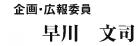
フリースロー
Free Throw

ハンドボール界の「宿題」は数多くある。すべてを満点回答できることはない。でも、少しでも解決に近づけることは不可能ではない。いろいろと模索していることは十分に感じる。だが、成果はいま一つと言わざるを得ない面があることも事実であろう。強い信念と尽きることのない目的に向かっての強い意思があるかどうかではないだろうか。

では早急に解決しなくてはならない宿題はなんだろう。間違いなくトップ＝日本リーグ各チームのレベルアップではないだろうか。これまで何度も言い続けているが、アジアを制する力をつけることである。そうすることで悲願のオリンピックが近づいてくることは間違いないはずだ。

最近、よく耳にするのは「個の力」ということである。これは何もハンドボール界に限ったことではない。サッカーでもブラジルで開かれたコンフェデレーションズカップで日本は3連敗。ザッケローニ監督はチームの底上げと新戦力発掘に力を注ぐ。

ここでも問題視されたのが「個の力」のアップである。確かに日本代表はチームワークを重視した戦術で力をつけ、世界の舞台でも戦えるレベルを着実に身につけてきた。しかし、世界の上位とは正直に言って、まだ大きな差があることも確かである。

そこで何をすべきかを問い続けている。育成と並行して取り組んでいるのが、トップのさらなるレベルの向上だ。コンフェデ杯でも指摘された「個の力」のアップである。一朝一夕にはいかないのは当然。組織全体で意思の疎通を図り、同じ目標に向かって各カテゴリーの強化に努めている。

アジアでは確固たる地位を築いているサッカーでも、目の前の強化でなく、先も見通した施策を講じている。ハンドボール界の現状はアジアの厚い壁打破、言い換えれば立ちはだかる韓国の壁を打ち破ることに全力を挙げるしかあるまい。当然、やってきたことではあるが、結果がついてきていない現実をしっかり注視し、原因を分析し、トレーニング方法などを振り返ってみることも大切だろう。

そうした一方で、もっと日本リーグの存在感をアピールすることが必要だろう。残念ながら日本リーグがあることすら知らない人は多い。今さら泣き言を言っても始まらない。地方では盛んなところもある。これをもっと広い地域、全国に拡大していくことが、絶対に必要なのです。開催地に任せるのではなく、協会、リーグ挙げて日本リーグ開催の広報活動にいっそう力を注ぐことが求められる気がしてならない。「またか」と思われるくらいやってもやりすぎということはないはずだ。

平成25年度
JOCジュニアオリンピックカップ大会
男子使用球の変更について

（公財）日本ハンドボール協会競技本部長　**江成 元伸**

中学生・中学校の大会としては、毎年3月に開催している「春の全国中学生ハンドボール選手権大会」及び8月に開催している夏の「全国中学校ハンドボール大会」があります。「春中」は、中学生があこがれる、ハンドボール競技の拠点を形成し、スポーツの振興と地域の再生に寄与することを趣旨として、中学校の部活動のチームのみならずクラブチームの参加を受け入れており、中学2年生を主体としてはいるものの文字通り中学生の最高の大会として位置づけられています。

一方、「全中」は、中学校教育の一環として、中学校生徒に広くスポーツ実践の機会を与え、技能の向上とアマチュアスポーツ精神の高揚を図り、心身ともに健康な中学校生徒を育成するとともに、中学校生徒相互の親睦を図るものであるとして、その性格を異にしています。

JOCジュニアオリンピックカップの開催趣旨は、（公財）日本ハンドボール協会選手強化方針にのっとり、将来、オリンピック・世界選手権大会等において、日本代表選手として活躍する可能性のあるジュニア選手の発掘と育成を行うとともに、オリンピック有望選手の認定と表彰を行うとしています。チームは都道府県の優秀選手を選抜したチームで、都道府県のチームとはいえ、日本協会のチームでもあるといえます。

このように、中学生の大会としては3大大会と位置づけられてはいるものの、それぞれの趣旨は違っており、目指す目標も異なっているといえます。

日本国内は多くの行事が年度単位で運営されていることから、毎年12月に開催される「JOCカップ」は、中学3年生を選抜し、最後のビックイベントとして開催されています。この大会は言うまでも無く全国の優秀選手を一堂に集めての大会であることから、選手の体格、技術、戦術は単に中学生レベルという枠を超え、まさに高校生と遜色なく戦っている現状があります。こうした中、この大会では早くハンドボール環境を高校生レベルに引き上げることを目的として、男子は高校生が使用している3号球を使用した大会としてより一層競技レベルの向上につなげていこうと企画しました。

本年度は周知に時間を要することも考慮し、夏の全中まで使用していた2号球を用いて予選会を行い、その後本大会に向けて3号球でトレーニングを積んでほしいとの思いで予選会は2号球で行うこととしました。平成26年度からは、これらの趣旨をくんで、中学校単独チームの練習では2号球を用い全中を目指し、春中以降のクラブチームはそれぞれの目的により2号球と3号球を使い分けるトレーニングを積むようにし、12月の本大会に向けて、3号球でトレーニングを積むようにしてください。

第38回 日本ハンドボールリーグ日程表

週	月日	開催地都道府県	会場	男子 時間	男子 組合せ	女子 時間	女子 組合せ
1	2013年 8月31日(土)	石川県	小松総合体育館			13:00	北國銀行 vs 三重
		広島県	中区スポーツセンター			14:00	メイプルレッズ vs ソニー
		熊本県	山鹿市総合体育館			14:00	オムロン vs HC名古屋
2	9月7日(土)	埼玉県	三郷市総合体育館	14:00	大崎電気 vs 豊田合成		
		広島県	中区スポーツセンター	15:00	湧永製薬 vs トヨタ自動車東日本	13:00	メイプルレッズ vs 飛騨高山
		鹿児島県	姶良市総合運動公園体育館			14:00	ソニー vs 三重
	9月8日(日)	愛知県	枇杷島スポーツセンター	15:15	大同特殊鋼 vs 北陸電力	13:00	HC名古屋 vs 北國銀行
			知立市福祉体育館	13:00	トヨタ車体 vs 琉球コラソン		
3	9月14日(土)	宮城県	フラップ大郷21	15:00	トヨタ自動車東日本 vs 大崎電気		
		愛知県	豊田合成(株)健康管理センター	15:30	豊田合成 vs トヨタ車体	13:00	HC名古屋 vs ソニー
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15:00	トヨタ紡織九州 vs 大同特殊鋼		
	9月15日(日)	岐阜県	大垣市総合体育館			13:00	飛騨高山 vs 三重
	9月16日(月)	京都府	京都府立体育館	13:00	北陸電力 vs 湧永製薬	15:00	オムロン vs 北國銀行
4	9月21日(土)	石川県	小松総合体育館	13:00	琉球コラソン vs 湧永製薬	15:00	北國銀行 vs 飛騨高山
		福井県	北陸電力福井体育館フレア	15:00	北陸電力 vs トヨタ紡織九州	13:00	ソニー vs オムロン
		愛知県	東海市民体育館	13:00	大同特殊鋼 vs 大崎電気		
			豊田合成(株)健康管理センター	14:00	豊田合成 vs トヨタ自動車東日本		
		三重県	鈴鹿市立体育館			13:00	三重 vs メイプルレッズ
	9月22日(日)	石川県	小松総合体育館	13:00	トヨタ紡織九州 vs 湧永製薬	15:00	北國銀行 vs ソニー
		愛知県	ウィングアリーナ刈谷	14:00	トヨタ車体 vs 大崎電気	12:00	HC名古屋 vs メイプルレッズ
				16:00	大同特殊鋼 vs トヨタ自動車東日本		
		岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ	13:00	北陸電力 vs 琉球コラソン	15:00	飛騨高山 vs オムロン
5	9月28日(土)	三重県	鈴鹿市立体育館			14:00	三重 vs HC名古屋
		広島県	中区スポーツセンター			14:00	メイプルレッズ vs オムロン
	9月29日(日)	岐阜県	ヒマラヤアリーナ			13:00	飛騨高山 vs ソニー
6	10月12日(土)	広島県	中区スポーツセンター			12:00	HC名古屋 vs 飛騨高山
						14:00	オムロン vs 三重
						16:00	メイプルレッズ vs 北國銀行
	10月13日(日)	広島県	湧永満之記念体育館			12:00	飛騨高山 vs 北國銀行
						14:00	オムロン vs ソニー
						16:00	メイプルレッズ vs 三重
7	10月19日(土)	三重県	三重県営鈴鹿スポーツガーデン体育館			14:00	三重 vs オムロン
		広島県	東区スポーツセンター	15:00	湧永製薬 vs 豊田合成	13:00	メイプルレッズ vs 北國銀行
		沖縄県	沖縄市体育館	14:00	琉球コラソン vs トヨタ自動車東日本		
	10月20日(日)	岩手県	花巻市総合体育館	14:00	大崎電気 vs トヨタ紡織九州		
		愛知県	知立市福祉体育館	13:00	トヨタ車体 vs 大同特殊鋼		
		岐阜県	ヒマラヤアリーナ			13:00	飛騨高山 vs HC名古屋
8	10月26日(土)	愛知県	豊田合成(株)健康管理センター	15:30	豊田合成 vs 北陸電力	13:00	HC名古屋 vs オムロン
		広島県	湧永満之記念体育館	14:00	湧永製薬 vs 大同特殊鋼		
		鹿児島県	姶良市総合運動公園体育館	13:00	琉球コラソン vs トヨタ紡織九州	15:00	ソニー vs メイプルレッズ
	10月27日(日)	岡山県	総社市スポーツセンター(きびじアリーナ)	14:00	トヨタ自動車東日本 vs トヨタ車体	11:00	三重 vs 北國銀行
9	11月2日(土)	岐阜県	下呂交流会館			13:00	HC名古屋 vs 三重
						15:00	飛騨高山 vs ソニー
		佐賀県	神埼中央公園体育館	12:00	北陸電力 vs トヨタ車体		
				15:00	トヨタ紡織九州 vs トヨタ自動車東日本		
		長崎県	佐世保市体育文化館			16:00	オムロン vs メイプルレッズ
	11月3日(日)	愛知県	プラザー体育館			13:00	飛騨高山 vs 三重
						15:15	HC名古屋 vs ソニー
		佐賀県	神埼中央公園体育館	12:00	北陸電力 vs トヨタ自動車東日本		
				15:00	トヨタ紡織九州 vs トヨタ車体		
		沖縄県	浦添市民体育館	13:00	大同特殊鋼 vs 豊田合成		
				15:30	琉球コラソン vs 大崎電気		
	11月4日(月)	沖縄県	浦添市民体育館	13:00	大崎電気 vs 湧永製薬		
				15:30	琉球コラソン vs 豊田合成		
10	11月9日(土)	石川県	小松総合体育館			18:00	北國銀行 vs オムロン
		富山県	氷見市ふれあいスポーツセンター	15:00	豊田合成 vs トヨタ紡織九州		
				17:00	北陸電力 vs 大崎電気		
		愛知県	枇杷島スポーツセンター	13:00	大同特殊鋼 vs 琉球コラソン		
		広島県	中区スポーツセンター	14:00	湧永製薬 vs トヨタ車体		
11	11月16日(土)	宮城県	大和町総合体育館	13:00	トヨタ自動車東日本 vs 湧永製薬		
		福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力 vs 大同特殊鋼		
		愛知県	TGアリーナ	15:00	豊田合成 vs 大崎電気		
		沖縄県	浦添市民体育館	14:00	琉球コラソン vs トヨタ車体		

12	11月23日（土）	静岡県	静岡市中央体育館	13:00	湧永製薬	vs	北陸電力				
				15:30	大崎電気	vs	トヨタ自動車東日本				
	11月24日（日）	長野県	千曲市戸倉体育館	13:00	トヨタ車体	vs	豊田合成				
		愛知県	枇杷島スポーツセンター	13:00	大同特殊鋼	vs	トヨタ紡織九州				
13	11月30日（土）	愛知県	ＴＧアリーナ	14:00	豊田合成	vs	湧永製薬				
		岐阜県	大垣市総合体育館	14:00	大同特殊鋼	vs	トヨタ車体				
	12月1日（日）	山梨県	甲州市塩山体育館	13:00	トヨタ自動車東日本	vs	琉球コラソン				
		佐賀県	佐賀県立総合体育館	15:00	トヨタ紡織九州	vs	大崎電気				
14	12月7日（土）	埼玉県	富士見市立市民総合体育館	14:00	大崎電気	vs	北陸電力				
		愛知県	ウィングアリーナ刈谷	13:00	トヨタ車体	vs	湧永製薬				
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15:00	トヨタ紡織九州	vs	豊田合成				
	12月8日（日）	沖縄県	東風平運動公園体育館	14:00	琉球コラソン	vs	大同特殊鋼				
15	2014年 1月11日（土）	三重県	鈴鹿市立体育館					14:00	三重	vs	飛騨高山
		熊本県	熊本県立総合体育館					12:30	ソニー	vs	ＨＣ名古屋
								14:55	オムロン	vs	北國銀行
16	1月18日（土）	広島県	東区スポーツセンター					14:00	メイプルレッズ	vs	ＨＣ名古屋
		鹿児島県	霧島市国分体育館					12:00	オムロン	vs	飛騨高山
								14:00	ソニー	vs	北國銀行
17	1月25日（土）	愛知県	ブラザー体育館					14:00	ＨＣ名古屋	vs	北國銀行
		岐阜県	飛騨高山ビッグアリーナ					13:00	三重	vs	ソニー
								15:00	飛騨高山	vs	メイプルレッズ
	1月26日（日）	愛知県	ブラザー体育館					13:00	ソニー	vs	メイプルレッズ
								15:15	ＨＣ名古屋	vs	オムロン
		三重県	鈴鹿市立体育館					14:00	三重	vs	北國銀行
18	2月1日（土）	宮城県	フラップ大郷21	13:00	トヨタ自動車東日本	vs	豊田合成				
		埼玉県	さいたま市記念総合体育館	14:00	大崎電気	vs	大同特殊鋼				
		三重県	四日市中央緑地体育館					14:00	三重	vs	メイプルレッズ
		大阪府	八尾市立総合体育館	14:00	湧永製薬	vs	琉球コラソン				
		佐賀県	神埼中央公園体育館	14:00	トヨタ紡織九州	vs	北陸電力				
		鹿児島県	霧島市国分体育館					14:00	ソニー	vs	オムロン
	2月2日（日）	石川県	金沢市総合体育館					13:00	北國銀行	vs	飛騨高山
19	2月8日（土）	岩手県	花巻市総合体育館	13:00	トヨタ自動車東日本	vs	トヨタ紡織九州				
				15:00	トヨタ車体	vs	北陸電力				
		徳島県	徳島市立体育館	13:00	豊田合成	vs	琉球コラソン	15:00	オムロン	vs	メイプルレッズ
	2月9日（日）	宮城県	フラップ大郷21	12:00	トヨタ自動車東日本	vs	北陸電力				
				14:30	トヨタ車体	vs	トヨタ紡織九州				
		香川県	高松市香川総合体育館	14:30	大崎電気	vs	琉球コラソン	12:00	三重	vs	ＨＣ名古屋
		愛媛県	松山市総合コミュニティセンター	14:00	豊田合成	vs	大同特殊鋼	12:00	ソニー	vs	飛騨高山
	2月11日（火）	広島県	東区スポーツセンター	15:00	湧永製薬	vs	大崎電気	13:00	メイプルレッズ	vs	飛騨高山
		高知県	高知県立県民体育館					13:00	北國銀行	vs	ＨＣ名古屋
								15:00	ソニー	vs	三重
20	2月15日（土）	宮城県	大和町総合体育館	13:00	トヨタ自動車東日本	vs	大同特殊鋼				
		鳥取県	境港市民体育館	14:00	大崎電気	vs	トヨタ車体				
		広島県	東区スポーツセンター	14:00	湧永製薬	vs	トヨタ紡織九州				
		大分県	大分県立総合体育館					12:30	メイプルレッズ	vs	ＨＣ名古屋
								14:30	オムロン	vs	飛騨高山
	2月16日（日）	沖縄県	沖縄市体育館	15:30	琉球コラソン	vs	北陸電力	13:00	北國銀行	vs	ソニー
21	2月22日（土）	石川県	小松総合体育館					16:00	北國銀行	vs	メイプルレッズ
		福井県	北陸電力福井体育館フレア	14:00	北陸電力	vs	豊田合成				
		佐賀県	神埼中央公園体育館	15:00	トヨタ紡織九州	vs	琉球コラソン				
		熊本県	水俣市立総合体育館					14:00	オムロン	vs	三重
		宮崎県	小林市市民体育館	16:00	トヨタ車体	vs	トヨタ自動車東日本				
	2月23日（日）	愛知県	枇杷島スポーツセンター	15:15	大同特殊鋼	vs	湧永製薬	13:00	ＨＣ名古屋	vs	飛騨高山

平成25年度 指導者向けアンチ・ドーピング研修会 開催報告

アンチ・ドーピング特別委員会委員長　坂本 静男

平成25年7月20日（土）国立スポーツ科学センターにおいて、アンチ・ドーピング研修会を開催した。

講師は、公益財団法人日本アンチ・ドーピング機構企画教育ユニットコーディネーターである前田明人氏と、日本ハンドボール協会アンチ・ドーピング特別委員ならびに医事専門委員である貝沼圭吾氏。

前田氏には、①「アンチ・ドーピングとは」②「指導者として日常注意すべきこと（選手の管理）」③「血液ドーピング検査の導入について」という内容で、多くのスライドを用いて大変分かりやすく御講義いただいた。

貝沼氏は、①「日本ハンドボールにおけるドーピング違反について」②「ハンドボール選手に於ける意識調査報告について」という内容で、現状報告からの問題提起と今後の活動の重要性を示した。

今回の研修会は指導者向けの内容として実施したものであった。しかしながら、アンチ・ドーピング特別委員以外の出席者は5名と大変少なかった。

指導者向けの研修会を開催した背景には、平成24年にハンドボール競技から2名のドーピング検査陽性者を出した事、また過去の検査において諸々のトラブルが発生しており、指導者のアンチ・ドーピングに関する知識や意識の向上が急務である事などが挙げられる。

検査にはそれまでハンドボールを知らない人々も多く関わり、選手や指導者の検査についての理解が浅いために起こるトラブルは、すなわちハンドボール競技に対する好ましくない印象にも繋がると言える。

検査に対して選手や指導者が正しい知識を持ち、検査内容を理解しスムーズに検査に対応出来るという事は、「ハンドボールはしっかりした競技団体だな」という評価に繋がっていくのである。

実際にドーピング検査対象選手に選ばれないと、どこか他人事のように思え実感が湧かないかもしれない。しかし突然検査の対象になり慌てる事のないように、「大会に参加する＝（イコール）検査の対象になり得る」という認識を全員が持ち、大会に臨んで頂きたい。

ドーピング検査は決して「犯人捜し」ではなく、選手の健全な心身を守るために実施しているものである。全ての競技団体がスムーズにクリーンな検査を行えるようになる事は、日本のスポーツ界がクリーンであるというアピールに繋がっている。

アンチ・ドーピング特別委員会では、今後ますます増加すると思われる検査数に対応するため、啓発活動を含め更なる努力を続ける所存である。

今回は都内での開催であったが、今後の研修会は遠方の指導者の方々にも参加しやすいようなものを検討している。ハンドボールに関わる全ての人が、アンチ・ドーピングに関して理解を深めて頂けるよう、積極的に参加をお願いしたい。

機関誌送付先各位

機関誌：チーム内回覧のお願い（機関誌専門委員会）

協会機関誌は、大会報告を始め種々の協会情報を掲載し年８回発行しております。
送付先は、各チーム登録の監督・指導者等となっておりますが、指導者のみならず、選手にも読んで戴きたい記事も在りますので、チーム内の選手にも是非回覧戴ければと存じます。

平成25年度 第16回ハンドボール研究集会［実施報告］

学校体育ハンドボール検討委員会 委員　丸井 一誠

表記研究集会が以下のように実施されました。

1．期　間　平成25年7月30日（火）、31日（水）
2．場　所　松山市青少年センター
　　　　　松山市立たちばな小学校
3．主　催　（公財）日本ハンドボール協会
4．主　管　愛媛県ハンドボール協会
5．後　援　文部科学省 愛媛県教育委員会
　　　　　松山市教育委員会　愛媛大学教育学部
6．実施内容

【7月30日（火）】

講義　12：50～13：50

講師　国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官（併）文部科学省スポーツ・青少年局参事官付教科調査官
石川　泰成

『豊かなスポーツライフの実現に向けて』

●指導内容の体系化
・発達段階を踏まえた指導内容
・「型」に共通する動きや技能
・中高接続に関する留意点
・指導と評価の一体化の推進
●体力の向上に向けた指導の充実

研究発表　14：00～15：10

①小林典和（新潟県十日町市立川治小学校）
『中学年ゴール型ゲームにおける基礎技能を保障する段階的単元構造の試み―ボールを運ぶ局面に特化したゲーム―』
②山本繁（岩手県釜石市立甲子小学校）
『シュートボールの実際―低学年ボール運動』
③高松葉司（奈良県大和郡山市立郡山中学校）
『ハンドボール部誕生物語』
④川田いづみ（神奈川県横浜市立間門小学校）
『体育科における課題解決的な学習―ハンドボールを通じて―』
⑤濱田圭（愛媛県松山市立生石小学校）
『投能力・戦術学習の基盤づくり』

実技研修　15：30～17：00

講師　筑波大学体育系　助教、男子ハンドボール部コーチ
ネメシュ・ローランド

『スポンジボールで行うミニハンドボール』

《実技内容》

○小学生でもできる体幹トレーニング
○体幹を鍛えるゲーム
○スポンジボールを使ったゲーム
○ルールを変えて動きを変えるハンドボール

【7月31日（水）】

授業提案および検討会　09：00～11：00

授業者：土手康之（松山市立たちばな小学校）
『ハンドボールをしよう』（6年）

講義　11：15～12：15

講師　神戸親和大学　学長　三木四郎

『ボール運動における動感能力の発生・充実指導の必要性』

●動感能力とは
●始原身体知
●コツ身体知
●カン身体知
●動きの形成位相
●指導のための身体知

閉会式　12：15～12：30

〈まとめ〉

本研究集会は16回を重ね、これまでの成果をまとめた『誰でも教えられるハンドボール』を発刊する運びとなりました。是非、ご一読していただき、体育の授業に役立てて頂けたら幸いです。最後に本研究集会を開催するにあたり、猛暑のなか、ご尽力していただいた愛媛県ハンドボール協会のみなさま、関係者の方々に感謝を申し上げげつつ、ご報告とさせていただきます。

日本ハンドボール協会 創立75周年記念誌刊行に寄せて

日本ハンドボール協会は、75年の歴史が刻まれ、1つの節目（ふしめ）として「記念誌」を刊行しました。

過ぎし日の歩みをじっくりと振り返り、その時々に想いをはせる機会は、そう多くありません。

是非、手にとり、読んでいただければ、皆さんが愛好するハンドボールの深さ、濃さ、広さを改めて識（し）ることになり、このスポーツに親しむ喜びと誇りを必ずや高めます。

記念誌編集委員会は約2年をかけて作業を進め、つねに「読みごたえ」を意識してきました。

それが、歴史的な局面の当事者たちによる寄稿や、4本の座談会、75年前を知るパイオニア・和田旬功さん（長崎在住、日体ＯＢ）への特別インタビューとなり、いちだんと内容を引き立たせています。日本ハンドボール協会は、愛好者のエネルギーによって誕生したのではなく、１９４０年に予定された「東京オリンピック」のために発足した団体でした。いわば急造の組織に集まる選手たちの姿を、和田さんは語ります。貴重です。

１９２２年、ハンドボールを日本に紹介した体育学者・大谷武一さん（１９６６年没）について大西武三氏が7ページのリポートでまとめ、「球界の父」を身近にさせます。

このほかの企画も、ファンを含めた愛好者には興味深いテーマで、ハンドボールの研究・調査を志す人には参考となりましょう。

図書館（室）、資料館（室）に納められるようご推薦ください。

口絵写真（白黒）は16ページに87葉を収めてあります。説明文をつなげれば、球史の流れを汲めるよう工夫したつもりです。

印刷直前に太田智子（岡山）・島尻真理子（東京）組が日本女性初の国際公認レフェリーに指名され、快挙の記念写真を滑りこませました。嬉しい〝追加〟でした。

この次の記念誌の編集は、いつになるのでしょう。２０２２年の〝伝来１００年〟の時はどうか、いや5年後の80周年に大会史を中心に試みてはどうかなどと、最終の編集委員会は、今回の熱さを引き継ぐ〝締め〟で閉じました。多くの方の「読後感」をお待ちしています。

杉山　茂・記念誌編集委員

記念企画
パイオニア和田旬功さんに聞く

特別リポート　大谷武一論（大谷武一とハンドボール）

75周年記念誌の誌面より

入手について

1．**書籍体裁**：B5版　620頁

2．**頒布価格**：10,500円（消費税込、送料別＊）
　＊地域、数量により送料は異なります。

3．**記念誌購入申込方法**：申込用紙（日本協会HPよりダウンロードしてください）に、必要事項を記入の上、日本協会事務局までE-mailまたは、FAX（03-3481-2367）にてお申し込みください。

4．**送付方法**：ご指定の送付先に宅急便にて配送いたします。

5．**お支払方法**：記念誌送付時に同封の郵便振替用紙にて、ご送金ください。

※なお、記念誌は限定制作のため、頒布数に限りがあります。予定数に達しましたら終了と致しますので、予めご了承ください。この件のお問い合わせにつきましては、日本協会事務局までお願いいたします。

主な目次

第21回女子世界選手権のグループ分けが決定 (IHF・HPより抜粋)

2013年6月15日：セルビア首都ベオグラードの市役所にて開催されました。

抽選は予め、24の国のリスト、それぞれの大陸資格のランキングと2011年のWorldチャンピオンシップの結果を考慮して6つのポット（列）に分けられ、夫々から、グループA, B, C, Dが抽選されました。6月15日の抽選のためのポットは以下の通りです。

1 ノルウェー（ディフェンディング・チャンピオン）、モンテネグロ、ハンガリー、デンマーク
2 オランダ、ブラジル、ドイツ、ポーランド
3 アンゴラ、フランス、セルビア、ルーマニア
4 韓国、スペイン、チェコ共和国、中国
5 チュニジア、コンゴ民主共和国、**日本**、アルゼンチン
6 ドミニカ共和国、パラグアイ、アルジェリア、オーストラリア

開催国のセルビアは、日本、デンマーク、ブラジル、中国、アルジェリアと同じグループBとなり、セルビア南部の最大都市であるニシュで、12月6日の開幕戦で日本と対戦します。

グループCには、現在の世界チャンピオン・ノルウェー、ポーランド、アンゴラ、スペイン、アルゼンチンとパラグアイが、強豪が揃うグループAはヨーロッパのチャンピオン・モンテネグロ、オランダ、フランス、韓国、コンゴ民主共和国とドミニカ共和国となりました。

最後に、バランスが取れたグループDは、ハンガリー、ドイツ、ルーマニア、チェコ共和国、チュニジアとオーストラリアとなりました。予選は、国内4箇所の都市で開催されます。

グループA（ベオグラード）	グループB（ニシュ）	グループC（ズレニャニン）	グループD（ノヴィ・サド）
モンテネグロ	デンマーク	ノルウェー	ハンガリー
オランダ	ブラジル	ポーランド	ドイツ
フランス	セルビア	アンゴラ	ルーマニア
韓国	中国	スペイン	チェコ共和国
コンゴ民主共和国	**日本**	アルゼンチン	チュニジア
ドミニカ共和国	アルジェリア	パラグアイ	オーストラリア

各々のグループの上位4つは予選通過します。そして、ベオグラードとノヴィ・サドで開催される準々決勝へと進みます。決勝はベオグラードで行われます。

協会だより

平成25年度第1回評議員会

日　時：平成25年6月8日（土）
　　　　13:30 ～ 16:00
場　所：味の素ナショナルトレーニング
　　　　センター研修室3・4
出席者（敬称略、名簿順）
評議員：松喜美夫、田辺哲彦、後藤義信、会田真一、樋口道夫、中浦　悟、村木啓作、夏目眞治、名倉昭弘、花野相三、千葉英之、高野　修、東福康浩、緒方知秋、宮元章次、横山英則、齊藤節郎、阿部富夫　以上18名
理事：渡邊佳英、多田　博、川上憲太、大橋則一、角　紘昭、津川　昭、西窪勝広、江成元伸　以上8名
監事：伊藤宏幸、近森克彦
特任副会長：山下　泉、川上整司
欠席者（敬称略、名簿順）
評議員：山口剛之、塩田壽久、四宮一郎、市田隆文　以上4名

以上、出席評議員18名、出席理事8名、出席監事2名、出席特任副会長2名、事務局2名

〈評議員会成立の確認〉
大橋常務理事より、本評議員会は、評議員定数22名のところ、出席18名、欠席4名であり、公益財団法人日本ハンドボール協会定款第24条に定められた、過半数以上の出席があり定足数を満たしているため、本評議員会が成立していることが報告された。

開会にあたり渡邊会長より挨拶があった。
平成25年度の第1回評議員会というよりも、4月1日より公益財団法人になり初めての評議員会ということで、財団のチェック機関として決算承認や役員選任等を厳正に行って頂かなくてはならない。また、ハンドボール協会をより良くするためにご助言を頂きたい。
現在2019年に女子世界選手権の招致を考えており、是非日本で開催したいと思っている。そのためには、4月にIHF会長が来日した際に話していたことに、日本代表チームが予選で退敗するようではダメで、決勝リーグで良い試合ができることが条件だということである。つまり、招致のポイントはチーム強化ということでもあり、ハンドボールを盛り上げて強いチームを作ってゆかなければならない。また、2020年のオリンピック招致も残りあと3カ月となり、気を抜かずに頑張りたい。

〈議長の選出〉
次に議長の選出が行われ、定款第23条に基づき、出席している評議員の互選により村木啓作評議員が選出され議長となった。

〈議事録署名人の選出〉
続いて、村木議長より議事録署名人の指名が行われ、議長、樋口道夫評議員、高野　修評議員が指名され、満場一致で承認された。

議事進行は、審議事項より行うこととした。

審議事項

1．平成24年度事業報告・決算書について
川上専務理事より事業報告について概要が説明された。国際大会では、ロンドンオリンピックに出場できなかったが、男子ユース代表が5回目にして初めての世界選手権出場権を獲得し、本大会での活躍を期待したい。平成25年2月に協会創立75周年の祝賀会を開き、記念誌を出版した。財務情勢は厳しいものであったが回復をした。2020年オリンピック招致活動に協会としてIOC委員視察に学生を動員するなどして協力した。
続いて、大橋担当常務理事より、決算状況について報告された。事業活動収入合計504,701,655円、事業活動支出合計478,191,961円、他積立金取崩収入、積立金支出があり、その結果次期繰越額62,530,777円となった。続いて、伊藤監事より6月3日に監事2名の立会で監査を行い、業務及び会計処理など適正であったことが報告された。
田辺評議員より、事業報告書のA、B級審判員審査結果の表の数字の不整合について質問があり、江成常務理事より至急確認し、修正するとの回答があった。
田辺評議員より、決算書について参加料収入の少なさ、未収金未払金の考え方や処理方法について質問があった。大橋常務理事より、参加料は審判講習会等の収入が少なく補正をしてなかったこと、助成金の支払いが5，6月になるため、3月末日の時点では多額の未収未払が発生する。繰越金が6千万円あれば、ある程度は改善されるとの回答があった。
後藤評議員より、登録料が平成25年度から値上げされるが、値上げの理由、具体的用途など中長期的に考えての改訂を行って貰いたい旨要望された。
近森監事より、現在一般会計で6千万円の繰越金とするには、事業を縮小する必要がある。マーケティング収入を含めたお金の集め方を考える必要がある。
審議の結果、全員異議なく、平成24年度決算は可決承認された。

2．役員選任について
村木議長より理事監事候補者選考委員の川上専務理事に理事28名、監事2名の推薦者について説明が求められた。
川上専務理事より、70歳を超える2名について、市原氏についてはJOC役員を始めトップリーグ連携機構など日本のスポーツを代表する団体の役員を兼務するなど余人をもって代え難く、角氏については長年ハンドボールの普及育成に努め、その成果が実りつつあることから継続して戴く。また、外部から学識経験者として村林氏に女性理事として東海林氏にも加わって頂くと説明があった。
村木議長より、一括で承認することも可能かと思うが、それとも1件ずつ諮るのか提案され、田辺評議員より、定款第25条3項に基づき各候補者ごとに決議した方が良いとの意見が出された。全員一致で各候補者ごとに決議することにした。

理事候補者
1．渡邊　佳英（わたなべ　よしひで）
2．市原　則之（いちはら　のりゆき）
3．多田　博（ただ　ひろし）
4．川上　憲太（かわかみ　けんた）
5．大橋　則一（おおはし　のりかず）
6．角　紘昭（すみ　ひろあき）
7．津川　昭（つがわ　あきら）
8．西窪　勝広（にしくぼ　かつひろ）
9．江成　元伸（えなり　もとのぶ）
10．志々場　修二（ししば　しゅうじ）
11．蒲生　晴明（がもう　せいめい）
12．藤森　徹（ふじもり　とおる）
13．藤井　俊朗（ふじい　しゅんろう）
14．朝生　和光（あそう　かずみつ）
15．村林　裕（むらばやし　ゆたか）
16．東海林　祐子（とうかいりん　ゆうこ）
17．春日井　条治（かすがい　じょうじ）
18．松井　幸嗣（まつい　こうじ）
19．船木　浩久（ふなき　ひろひさ）
20．小越　康雄（こごし　やすお）
21．高山　重雄（たかやま　しげお）
22．稲生　茂（いなお　しげる）
23．庄司　勝三（しょうじ　かつみ）
24．池本　聡（いけもと　ふさし）
25．中村　博幸（なかむら　ひろゆき）

26．山本　一（やまもと　はじめ）
27．佐藤　公美（さとう　きみよし）
28．田中　守（たなか　まもる）
監事候補者
1．伊藤　宏幸（いとう　ひろゆき）
2．近森　克彦（ちかもり　かつひこ）
審議の結果、全員異議なく、理事28名、監事2名は承認された。

報告事項

1．平成25年度第一次補正予算（案）について
大橋財務担当常務理事より、平成24年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成24年度第一次補正案について説明がなされた。
補正後　事業活動収入合計489,388,000円、事業活動支出合計452,497,600円、積立金支出26,000,000円、当期収支差額10,890,400円となり、次期繰越収支差額は73,421,177円となることが説明された。

2．平成24年度日本協会表彰者について
大橋総務担当常務理事より、平成24年度の日本協会表彰者について、加盟団体及び日本協会からの18の推薦者の報告がなされた。

3．平成25年度会議日程について
大橋総務担当常務理事より、平成25年度会議日程について報告がなされた。

4．平成25年度国際・国内大会日程について
江成競技担当常務理事より、平成25年度国際・国内大会日程について報告がなされた。

5．強化（スタッフ、日韓定期戦他）について
津川強化担当常務理事より報告がなされた。日韓定期戦はお互いに手の内を明かさずということで全力を出し切っていないが手ごたえはあった。U-22はカテゴリーにないが急遽ナショナルアカデミーから選出した。韓国は男子が大学2校が出場したり、中国はU-22より若手が出場するなど、初めての大会なのでいろいろあった。

6．普及関係（ハンドボール研究集会他）について
角指導普及担当常務理事より報告がなされた。愛媛県でのハンドボール研究集会は是非ご参加頂きたい。

7．女子世界選手権招致について
川上専務理事より報告がなされた。3月14日に熊本県協会島田会長が2019年女子世界選手権の開催地に立候補したいという申し出を受け、新理事会で決議されたらIHFに意思表明する予定。

8．日本選手権について
江成競技担当常務理事より日本選手権（仮称）について現状報告がなされた。

9．スポーツ界における暴力根絶宣言について
川上専務理事より報告がなされた。4月25日に日体協、JOC、日本障害者協会、高体連、中体連5団体による「スポーツ界における暴力行為根絶に向けた集い」が開催され、「スポーツ界における暴力行為根絶宣言」が採択されたと報告した。

10．ゴール転倒事故について
江成競技担当常務理事より報告がなされた。学校管理下での事故ではあるが、ハンドボールゴールということもあって各チームに通達し、尚かつ、47都道府県の教育委員会宛にもお願い状を送付した。

11．がんばれハンドボール20万人会について
大橋担当常務理事より報告がなされた。

12．その他
田辺評議員より表彰規程について、現状に則して現役役員も表彰できる内容に改訂する事が要望された。
松評議員より、来年6月まで評議員会が開催されないことになるが、その間の連絡はどうなるのか。川上専務理事より、予算等の報告もあるので2月か3月に臨時評議員会を開催することを検討しているとした。
松評議員よりテクニカルデレゲート資格について日本協会の提示がないが、今後どうするのか質問があった。江成常務理事より、各ブロックで講習会の計画を立てている。資格については、今後検討したい。

予定していた議案について全て終了したので、15時30分に平成25年度第1回評議員会は閉会した。

平成25年度第1回理事会

日　時：平成25年6月15日（土）
13:30～16:00
場　所：味の素ナショナルトレーニングセンター研修室1・2
出席者（敬称略、名簿順）
理事：渡邊佳英、多田　博、川上憲太、大橋則一、角　紘昭、津川　昭、西窪勝広、江成元伸、志々場修二、蒲生晴明、藤森　徹、藤井俊朗、松井幸嗣、船木浩久、小越康雄、高山重雄、稲生　茂、庄司勝三、池本　聡、中村博幸、山本　一、佐藤公美、田中　守、村林　裕、東海林祐子　以上25名
監事：伊藤宏幸、近森克彦
参事：川原繁樹、坂本静男、中野利一、近久紀人、笹倉清則、大原康昇、小山哲央、山本　繁、田中　茂、越田義昭、仲田　稔
以上11名
欠席者（敬称略、名簿順）
理事：市原則之、朝生和光、春日井条治
以上3名

以上、出席理事25名、出席監事2名、出席参事11名、事務局2名

〈理事会成立の確認〉
大橋理事より、本理事会は、理事定数28名のところ、出席25名、欠席3名であり、公益財団法人日本ハンドボール協会定款第41条に定められた、過半数以上の出席があり定足数を満たしているため、本理事会が成立していることが報告された。

〈会長選出〉
6月8日の評議員会にて28名の理事が選任されたが、会長がまだ決定されておらず、本理事会議事進行にあたり会長をまず決定する必要があると大橋理事より提案された。
全会一致で渡邊佳英理事を会長（代表理事）とする。

開会にあたり渡邊会長より挨拶があった。
平成25年4月1日より公益財団法人として日本協会は新たなスタートをした。理事会はハンドボールの実行部隊として、より多くの人にハンドボールを楽しんで貰えるように、またハンドボールチームをより強くするために頑張っていきたい。東海林さん、村林さんを迎えて、きちんとした団体として頑張っていきたい。現在、市原理事は2020年オリンピック招致のためローザンヌとフランスに行っている。トルコ情勢もあって東京が有利と言われているが、オリンピック招致をみんなで支援していきましょう。

〈議長の選出〉
次に議長の選出が行われ、同定款第40条に基づき、会長が議長となった。

〈議事録署名人の選出〉
続いて、議長より議事録署名人の指名が行われ、同定款第45条に基づき、渡邊佳英会長、伊藤宏幸監事、近森克彦監事とすることが満場一致で承認された。

議事進行は、審議事項より行うこととした。

審議事項

1．役員互選、コンプライアンス（委員会）規程
川上理事より評議員選任結果と組織図案が示され、これに基づき役員の具体的役職について説明提案された。全国9ブロックと連盟より理事になられた方々は、利益代表ではなく日本協会の視点での理事活動をお願いしたい。また、コンプライアンス委員会を総務部内に設置することが提案された。
田中理事より、組織図案で競技者育成技術委員会が昨年度と異なり、競技、強化、普及指導3本部の上にあったが今回下になっている。どうして変更されたか説明をして欲しい。川上理事より、委員長として今までの会議内容や機能面を考慮して、この位置とした事が説明された。

1．会　長　渡邊　佳英（わたなべ　よしひで）
2．副会長　市原　則之（いちはら　のりゆき）
3．副会長　多田　博（ただ　ひろし）
4．専務理事　川上　憲太（かわかみ　けんた）

5．常務理事　大橋　則一（おおはし　のりかず）
6．常務理事　角　紘昭（すみ　ひろあき）
7．常務理事　津川　昭（つがわ　あきら）
8．常務理事　西窪　勝広（にしくぼ　かつひろ）
9．常務理事　江成　元仲（えなり　もとのぶ）
10．常務理事　志々場　修二（ししば　しゅうじ）
11．常務理事　蒲生　晴明（がもう　せいめい）
12．常務理事　藤森　徹（ふじもり　とおる）
13．常務理事　藤井　俊朗（ふじい　しゅんろう）
14．常務理事　朝生　和光（あそう　かずみつ）
15．理　　事　村林　裕（むらばやし　ゆたか）
16．理　　事　東海林　祐子（とうかいりん　ゆうこ）
17．理　　事　春日井　条治（かすがい　じょうじ）
18．理　　事　松井　幸嗣（まつい　こうじ）
19．理　　事　船木　浩久（ふなき　ひろひさ）
20．理　　事　小越　康雄（こごし　やすお）
21．理　　事　高山　重雄（たかやま　しげお）
22．理　　事　稲生　茂（いなお　しげる）
23．理　　事　庄司　勝三（しょうじ　かつみ）
24．理　　事　池本　聡（いけもと　ふさし）
25．理　　事　中村　博幸（なかむら　ひろゆき）
26．理　　事　山本　一（やまもと　はじめ）
27．理　　事　佐藤　公美（さとう　きみよし）
28．理　　事　田中　守（たなか　まもる）

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

2．平成24年度事業報告書（案）・決算書

川上専務理事より平成24年度の事業報告について概要が説明された。国際競技力向上にベクトルを合わせるとしてきたが、男女代表ともにロンドンオリンピックはアジア予選で2位となり最終予選に挑んだが結果として出場できなかった。男子ユースは5回目にして初めての世界選手権の出場権を獲得した。女子ユースは決勝ラウンドに進出し8位に入賞した。NTS、アカデミーの成果の表れか、若手の有望選手が出てきた。リオのオリンピックに向けて、新生男女代表チームがスタートした。女性初のIHFレフェリーペアが誕生した。日本リーグにトヨタ自動車東日本が参加した。財務は前々年並みまで回復した。

大橋担当常務理事より決算状況について報告された。事業活動収入合計504,701,655円、事業活動支出合計478,191,961円、他積立金取崩収入、積立金支出があり、その結果次期繰越額62,530,777円となった。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

3．平成25年度第一次補正予算（案）・事業計画書

大橋財務担当常務理事より、平成24年度の決算が確定したことと一部見直しがあったことから、平成24年度第一次補正案について説明がなされた。

補正後、事業活動収入合計489,388,000円、事業活動支出合計452,497,600円、積立金支出26,000,000円、当期収支差額10,890,400円となり、次期繰越収支差額は73,421,177円となることが説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

4．平成24年度日本協会表彰者について

大橋常務理事より各加盟団体及び日本協会推薦者18名（団体）について説明された。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

5．2019女子世界選手権招致について

川上専務理事より説明された。熊本県協会より、自治体等から協力が得られるので立候補したいとの申し出があり、プロジェクト委員会及び常務理事会で検討を行った結果、この理事会で審議決定することにした。承認が得られればLetter of Intent（関心表明書）書をIHFに提出する。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

6．平成27～29年度JOCジュニアオリンピックカップについて

角常務理事より説明された。沖縄県協会が福島に続く3年間（平成27～29年度）の開催を希望している。チームの経費負担増加が心配である。

多田副会長より、先日、リーグのことで浦添市を訪れた。浦添市長は若く、琉球コラソンを通じてハンドボールを支援している。浦添市が中心となってJOCカップを開催したいとのことなので宜しくお願いしたい。

審議の結果、全員異議なく、本件は可決承認された。

報告事項

1．平成25年度会議日程について

大橋常務理事より平成25年度の会議日程について報告された。

2．平成25年度国際・国内・ブロック大会日程について

江成常務理事より現時点での平成25年度の国際、国内大会日程と裏面に9ブロックの大会日程が報告された。

小山参事より、ブロック大会日程について、マスターズ大会は東海、東北以外でもブロック大会として開催されているところがあり、マスターズ大会を認識して貰いたい。

山本理事より、12月の女子世界選手権の直後に全日本総合があるが、もう少し間を置けないか。江成常務理事より、大会日程の重複は避けており、これが限度である。

3．強化（スタッフ、日韓定期戦、東アジアU-22選手権）について

津川常務理事より報告がなされた。スタッフには、ナショナルアカデミーにスポット的に協力して貰うコーチを設置している。

4．年代別育成指定選手、JHAジュニアアカデミー育成選手リスト

田中参事より報告がなされた。なお、アカデミー育成選手はNTSブロックトレーニングは免除されている。

5．日本選手権、JOCカップ男子使用球、ゴール転倒事故について

江成常務理事より報告がなされた。日本選手権のトーナメント表のイメージをいれた。できれば来年開催のため早急に決定したい。

稲生理事より、来年開催するには現実的にブロック予選をどうするのか具体的な案が示されておらず、体育館の予約もあり、いつまでに予選を行う等詳細を示して欲しい。

6．平成25年度審判部報告

藤井常務理事より平成25年度の審判事業、全日本大会担当レフェリー名簿、日本リーグ担当レフェリー名簿、レフェリー研修会及びレフェリーアカデミー受講者について説明報告がなされた。

7．指導普及関係（公認指導者、研究集会他）について

笹倉参事より、平成25年の日体協公認スポーツ指導員数は、昨年80名の合格者があるので、1,114名＋80名に増えている。また、今年度指導員養成講習会開講県が7県あるが、長野県を除き連絡がとれていない。今後、県指導者の組織を作って頂き、担当者を決定して連絡するように依頼された。

角常務理事より、8月の研究集会開催について説明があり、多くの方への参加が依頼された。

小山参事より、花巻でのマスターズ大会が8月2～4日に開催され、台湾より高雄（男子）と台北（女子）が参加し、小学生チームも来日予定であると報告された。

8．2013NTSについて

角常務理事より、今年度のブロックNTS等について報告がなされた。

9．文科省国際的スポーツ人材養成プログラム継続について

蒲生常務理事より、昨年度文科省の国際的スポーツ人材養成プログラムを受けた稲福君について、その活動概要と平成25年度も継続して申請したことが報告された。

10．アンチ・ドーピング研修会開催について

坂本参事より、JADAの協力を得て7月20日（土）に指導者向けアンチ・ドーピング研修会の開催することが説明された。連絡はWeb登録システムでのメール配信、ホームページ等で行う。

11．スポーツ界における暴力行為根絶宣言

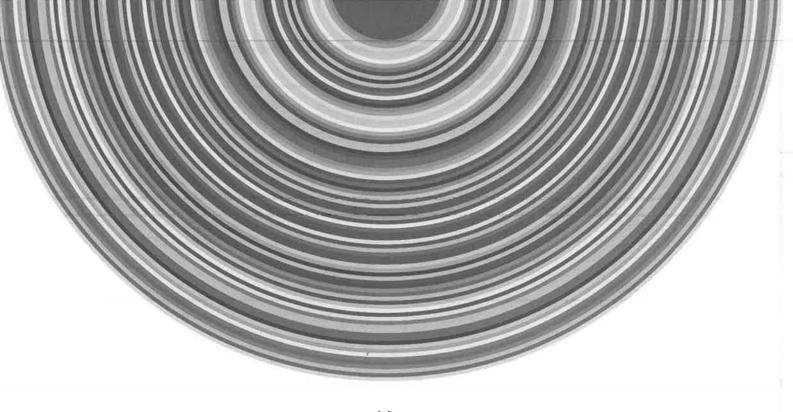
川上専務理理事より報告がなされた。

12．オリンピックマーケティングNF基本ガイドライン

川上専務理事より報告がなされた。

13．がんばれハンドボール20万人会について

大橋常務理事より報告がなされた。

予定していた議案について全て終了したので、16時30分に平成25年度第1回理事会は閉会した。

スコアールーム①

高松宮記念杯第3回全日本社会人選手権大会

開催期日：2013年7月3日(水)～7日(日)
会　場：山口県・キリンビバレッジ周南総合スポーツセンター

【男　子】

▼ 1回戦
豊田合成 38（20－14、18－7）21 八光自動車工業
湧永製薬 44（25－6、19－11）17 トヨタ自動車
トヨタ紡織九州 27（13－11、14－15）26 琉球コラソン
トヨタ自動車東日本 35（17－14、18－14）28 北陸電力
HONDA※ 27（12－12、15－10）22 大同クラブ

▼ 9－13位決定戦
八光自動車工業 22（12－11、10－9）20 トヨタ自動車
北陸電力 36（15－10、21－13）23 大同クラブ
琉球コラソン 43（19－5、24－8）13 八光自動車工業

▼ 11－12位決定戦
大同クラブ 28（12－10、16－10）20 八光自動車工業

▼ 9－10位決定戦
琉球コラソン 29（13－8、16－13）21 北陸電力

▼ 2回戦
大崎電気 38（16－14、22－17）31 トヨタ自動車東日本
豊田合成 30（13－15、17－14）29 湧永製薬
大同特殊鋼 36（19－9、17－11）20 HONDA※
トヨタ車体 39（16－7、23－12）19 トヨタ紡織九州

▼ 5－8位決定戦
湧永製薬 34（19－14、15－13）27 トヨタ自動車東日本
トヨタ紡織九州 31（16－12、15－10）22 HONDA※

▼ 7－8位決定戦
トヨタ自動車東日本 27（14－11、13－13）24 HONDA※

▼ 5－6位決定戦
湧永製薬 34（15－11、19－13）24 トヨタ紡織九州

▼ 決勝リーグ
大崎電気 38（21－5、17－9）14 豊田合成
大同特殊鋼 28（10－8、18－13）21 トヨタ車体
大崎電気 31（14－12、17－14）26 トヨタ車体
大同特殊鋼 26（12－10、14－13）23 豊田合成
豊田合成 28（15－11、13－12）23 トヨタ車体
大同特殊鋼 24（10－11、14－11）22 大崎電気

【最終順位】優勝：大同特殊鋼、2位：大崎電気、3位：豊田合成、4位：トヨタ車体、5位：湧永製薬、6位：トヨタ紡織九州、7位：トヨタ自動車東日本、8位：HONDA※、9位：琉球コラソン、10位：北陸電力、11位：大同クラブ、12位：八光自動車工業、13位：トヨタ自動車

※Hondaは、今大会に限り「HONDA」とします。

【女　子】

▼ 予選Aグループ
広島メイプルレッズ 31（15－12、16－9）21 三重バイオレットアイリス
広島メイプルレッズ 21（10－12、11－9）21 ソニーセミコンダクタ
三重バイオレットアイリス 25（12－12、13－9）21 ソニーセミコンダクタ

▼ 予選Bグループ
オムロン 26（14－11、12－14）25 北國銀行
オムロン 23（12－11、11－10）21 香川銀行T・H
オムロン 26（14－11、12－14）25 北國銀行
北國銀行 26（11－12、15－9）21 香川銀行T・H

▼ 5－6位決定戦
ソニーセミコンダクタ 27（13－9、14－5）14 香川銀行T・H

▼ 準決勝
北國銀行 32（14－11、18－16）27 広島メイプルレッズ
オムロン 26（14－7、12－11）18 三重バイオレットアイリス

▼ 決勝
オムロン 23（14－10、9－7）17 北國銀行

【最終順位】優勝：オムロン、2位：北國銀行、3位：広島メイプルレッズ、4位：三重バイオレットアイリス、5位：ソニーセミコンダクタ、6位：香川銀行T・H

スコアールーム②

第33回全国クラブ選手権大会・西地区大会

開催期日：2013年7月6日(土)～7日(日)
会　場：鹿児島県・霧島市国分体育館ほか

【男　子】

▼ Aブロック
SFIDA山口（山口） 24－20 アローズ高知（高知）
SFIDA山口（山口） 38－18 HC七隈（福岡）
アローズ高知（高知） 25－23 HC七隈（福岡）

▼ Bブロック
クラブTBK（佐賀） 26－17 中央クラブ（香川）
Links（鹿児島） 25－21 クラブTBK（佐賀）
中央クラブ（香川） 19－15 Links（鹿児島）

▼ Cブロック
総社クラブ（岡山） 20－18 松橋送球（熊本）
総社クラブ（岡山） 20－16 G.Family（鹿児島）
松橋送球（熊本） 25－18 G.Family（鹿児島）

▼ Dブロック
FHC（福岡） 20－18 ホンダ熊本（熊本）
FHC（福岡） 24－17 AWC（広島）
ホンダ熊本（熊本） 22－19 AWC（広島）

▼ 9－11位決定戦
HC七隈 26（8－12、18－9）21 中央クラブ
G.Family 22（13－8、9－12）20 AWC

▼ 5－7位決定戦
アローズ高知 32（17－13、15－11）24 Links
ホンダ熊本 22（8－8、14－11）19 松橋送球

▼ 準決勝
SFIDA山口 26（12－11、14－5）16 クラブTBK
FHC 27（13－7、14－13）20 総社クラブ

▼ 3位決定戦
総社クラブ 24（9－6、15－9）15 クラブTBK

▼ 決勝戦
FHC 25（14－10、11－13）23 SFIDA山口

【女　子】

▼ Eブロック
徳山クラブ（山口） 25－18 FCC（福岡）
徳山クラブ（山口） 24－20 Ninfa－kagoshima（鹿児島）
FCC（福岡） 20－18 Ninfa－kagoshima（鹿児島）

▼ Fブロック
うとスポーツクラブ（熊本） 24－19 延球会（宮崎）
うとスポーツクラブ（熊本） 15－10 香川レディース（香川）
延球会（宮崎） 27－18 香川レディース（香川）

▼ Gブロック
神埼クラブ（佐賀） 24－13 ちあふる（鹿児島）
神埼クラブ（佐賀） 25－11 岡山クラブ（岡山）
ちあふる（鹿児島） 23－12 岡山クラブ（岡山）

▼ Hブロック
熊本クラブ（熊本） 31－22 シーコルズ（沖縄）
熊本クラブ（熊本） 23－14 徳島クラブ（徳島）
シーコルズ（沖縄） 19－15 徳島クラブ（徳島）

▼ 9－11位決定戦
Ninfa－kagoshima 25（14－5、11－9）14 香川レディース
徳島クラブ 21（11－5、10－5）10 岡山クラブ

▼ 5−7位決定戦
延球会 22（12−9、10−7）16 FCC
シーコルズ 22（11−8、11−10）18 ちあふる
▼ 準決勝
徳山クラブ 23（14−5、9−6）11 うとスポーツクラブ
熊本クラブ 18（7−7、11−9）16 神埼クラブ
▼ 3位決定戦
うとスポーツクラブ 19（9−10、10−7）17 神埼クラブ
▼ 決勝戦
徳山クラブ 20（12−8、8−8）16 熊本クラブ

スコアルーム③

第33回全国クラブ選手権大会・中地区大会

開催期日：2013年7月20日(土)～21日(日)
会　場：大阪府・大阪市舞洲アリーナ

【男　子】
▼ 1回戦
SOCIO OSAKA（大阪） 27−21 清商クラブ（静岡）
長野クラブ（長野） 33−25 NisC（和歌山）
咲乱（三重） 22−19 右肩あがり（奈良）
HC新潟（新潟） 12−0 八幡クラブ（滋賀）
スワロークラブ（兵庫） 37−28 金津クラブ（福井）
D・B・C（愛知） 25−24 洛北クラブ（京都）
各務原市HCキャロット（岐阜） 32−23 向陵クラブ（富山）
八光自動車工業（大阪） 31−17 HC侍（石川）
▼ 2回戦
SOCIO OSAKA 32（17−4、15−8）12 長野クラブ
HC新潟 25（13−7、12−8）15 咲乱
D・B・C 29（12−13、17−15）28 スワロークラブ
八光自動車工業 29（14−10、15−12）22 各務原市HCキャロット
▼ 準決勝
HC新潟 26（15−11、11−14）25 SOCIO OSAKA
八光自動車工業 25（12−9、13−10）19 D・B・C
▼ 決勝
八光自動車工業 31（13−13、18−10）23 HC新潟
▼ 大阪杯（敗者戦）1回戦
清商クラブ 38−26 NisC
洛北クラブ 29−12 金津クラブ
HC侍 33−24 向陵クラブ
▼ 大阪杯準決勝
右肩あがり 33−16 清商クラブ
洛北クラブ 26−11 HC侍
▼ 大阪杯決勝
右肩あがり 19（9−7、10−8）15 洛北クラブ

【女　子】
▼ 1回戦
五ツ星（石川） 16−11 金曜クラブ（大阪）
Cheeky（愛知） 10−8 いろは（京都）
富山エンジェルス（富山） 19−15 風見鶏クラブ（兵庫）
NTF立命館守山（滋賀） 17−14 BRHC（岐阜）
遊気クラブ（長野） 20−17 静岡城北クラブ（静岡）
▼ 2回戦
五ツ星（石川） 14−10 三重娘（三重）
富山エンジェルス（富山） 22−13 Cheeky（愛知）
GET"S（近畿） 19−14 NTF立命館守山（滋賀）
御座候（大阪） 25−6 遊気クラブ（長野）
▼ 準決勝
富山エンジェルス 18（6−3、12−6）9 五ツ星
御座候 11（5−4、6−2）6 GET"S
▼ 決勝
富山エンジェルス 16（9−6、7−7）13 御座候
▼ 大阪杯（敗者戦）1回戦
三重娘 16−14 金曜クラブ
いろは 19−11 風見鶏クラブ
▼ 大阪杯準決勝
三重娘 14−8 いろは
BRHC 21−12 静岡城北クラブ
▼ 大阪杯決勝
BRHC 18（7−8、11−7）15 三重娘

スコアルーム④

第33回全国クラブ選手権大会・東地区大会

開催期日：2013年7月20日(土)～21日(日)
会　場：福島県・本宮市総合体育館ほか

【男　子】
▼ 1回戦
渡辺組（神奈川） 35−26 野辺地クラブ（青森）
HCY okohama（神奈川） 33−19 古工クラブ（宮城）
FSTO（東京） 31−23 福島SGクラブ（福島）
蓮田クラブ（埼玉） 21−17 上送（山形）
学石クラブ（福島） 28−21 甲府クラブ（山梨）
湖陵クラブ（北海道） 33−29 東陽（栃木）
富岡クラブ（群馬） 34−17 独眼竜（宮城）
小金クラブ（千葉） 37−20 HC秋田（秋田）
▼ 2回戦
渡辺組 28（16−8、12−11）19 HCY okohama
蓮田クラブ 22（12−7、10−10）17 FSTO
学石クラブ 31（18−10、13−15）25 湖陵クラブ
富岡クラブ 22（8−11、14−9）20 小金クラブ
▼ 準決勝
渡辺組 22（7−9、15−7）16 蓮田クラブ
学石クラブ 26（13−6、13−8）14 富岡クラブ
▼ 3位決定戦
蓮田クラブ 24（12−9、12−12）21 富岡クラブ
▼ 決勝
渡辺組 36（15−15、21−16）31 学石クラブ

【女　子】
▼ 1回戦
べにばなクラブ（山形） 17−15 筑波学園クラブ（茨城）
やんちゃクラブ（群馬） 23−19 白梅三英英会（岩手）
ガビアーノチップス（神奈川） 25−13 石川クラブ（福島）
HC秋田w（秋田） 25−21 和洋PHOENIX（千葉）
REDS（埼玉） 21−19 福島クラブ（福島）
日吉台クラブ（千葉） 28−20 野辺地クラブ（青森）
北海道倶楽部（北海道） 25−21 かぶら女子クラブ（群馬）
シャトレーゼHC（山梨） 36−19 古川クラブ（宮城）
▼ 2回戦
やんちゃクラブ 26（13−7、13−10）17 べにばなクラブ
ガビアーノチップス 21（11−9、10−7）16 HC秋田w
REDS 31（16−4、15−11）15 日吉台クラブ
シャトレーゼHC 30（16−4、14−8）12 北海道倶楽部
▼ 準決勝
ガビアーノチップス 16（8−9、8−6）15 やんちゃクラブ
シャトレーゼHC 24（12−11、12−7）18 REDS
▼ 3位決定戦
やんちゃクラブ 27（12−13、15−11）24 REDS
▼ 決勝
シャトレーゼHC 26（12−9、14−8）17 ガビアーノチップス

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」6・7月入会・継続会員

【北海道】松　喜美夫【青　森】田辺貴美子【茨　城】浜田裕一【群　馬】酒井　宏【埼　玉】齋藤和也、佐藤秀明、浅川敏司、中野慶子、佐藤三枝子【千　葉】松井秀樹【東　京】田島雅史、増田美穂子、河内鋭雄、大津武彦、小笠原泰代【神奈川】吉田祐子、河野卓也、木本一成、花岡美智子【山　梨】齊藤　實
【長　野】安藤純光【愛　知】安藤　孝、山田壮八、竹内佐織、青木雅之【三　重】加藤　祥
【京　都】山口栄一【大　阪】戸谷克蔵、里村静俊【兵　庫】高祖加奈子【和歌山】吉田正明、加藤照男
【愛　媛】森實岳史【福　岡】日野祐一郎、和佐野健吾【長　崎】石井通義【熊　本】陣上修一、木村淳一

【9月の行事予定】

【会議】……………………………………………………………
9月14日(土)　常務理事会

【大会】……………………………………………………………
9月6日(金)～11日(水)
日韓スポーツ交流（受入・男子）
（日本・会場未定）
9月7日(土)～15日(日)
第5回女子ユースアジア選手権
（U-18、タイ・バンコク）

HAND BALL CONTENTS Aug. Sep.

（登録チームの購読料は登録料に含む）

（公財）日本ハンドボール協会編『ハンドボール』第五三七号

平成二十五年八月二十六日印刷
平成二十五年九月一日発行

東京都渋谷区神南一－一－一
電話 代表〇三－三四八一－二三六一
振替 〇〇一二〇－七－一〇二九三

編集兼発行人 川上憲太

定価 年間三三〇〇円